

和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 仁井田, 益太郎 / 栗津, 清亮 / 荒井, 賢太郎 /
遠藤, 忠次 / 鶴見, 守義 / 和仁, 貞吉

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-11

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1902-04-10

（明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可 每月二回）
昭和三年四月十日發行

三十五年度 第二學年

和佛法律學校講義錄

號壹拾第

和佛法律學校發行



第二學年第十一號目次

民法債權第一章(至一〇八九)	法學士 荒井賢太郎
商法會社(至一三三)	法學士 和仁貞吉
商法商行爲第十章(至六四九)	法學士 栗津清亮
民事訴訟法第一編(至八七四)	法學博士 仁井田益太郎
民事訴訟法第二編(至一四一六)	法學士 遠藤忠次
刑事訴訟法(至一〇九)	法律學士 鶴見守義
財政學(至八九)	法學士 下村安

雜報

○一旦他人ニ賣却セラレタル不動産タルコトヲ知リテ買受ケタル行爲○民法中改正法律ノ公布

090
1902
2-211

律ハ保證人ハ主タル債務ヲ保證スルニ非シテ主タル債務取消ノ場合ニ於テハ同一ノ目的ヲ有スル特別ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス(第四四九條)是レ保證人カ取消サルヘキ債務タルヲ知リナカラ之ヲ保證シタルト謂フコトハ其取消サレタル場合ニ於テ自己カ代リテ其義務ヲ盡スト謂フノ意思ヲ以テ債務ヲ負擔シタルモノト解スルハ最モ當事者ノ意思ニ適スル解釋ナレハナリ故ニ此ノ如キ場合ニハ保證人ハ保證債務ヲ負擔シタルニ非シテ全ク獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト謂ハサルヘカラス尤モ此事ハ固ヨリ法律上ノ推定ナルヲ以テ反對ノ證據アレハ之ニ依ルヘキハ勿論ナリトス

無能力者ノ債務ヲ保證シタル場合ニ其取消ノ原因ヲ保證契約ノ當時保證人ニ於テ知レルトキハ後日ニ至リ其債務カ取消サレタルトキト雖モ保證人ハ之ト同一ノ目的ヲ有スル債務ヲ獨立シテ負擔スルモノトス而シテ此場合ニハ最早保證債務ノ性質ヲ失フカ故ニ保證人ハ後日ニ至リ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有セサルハ勿論ナリ

詐欺又ハ強迫ノ爲メ意思表示ニ瑕疵ヲ來シ因テ取消スコトヲ得ヘキ債務ニ付

民法債權 多額當事者ノ債權

090
1902
2-1-11

第二學年第十一號目次

民法債權第一編(二八〇)	法學士 豐井 實 大藏
商法 會社(二七)	法學士 和 仁 貞吉
商法商行為第十章(二四四)	法學士 栗 津 清 本
民事訴訟法第一編(二八七)	法學博士 仁井田 常 大藏
民事訴訟法第二編(二四六)	法學士 遠 藤 忠 次
刑事訴訟法(二〇六)	法學士 堀 見 守 衛
財政學(二八六)	法學士 下 村 安

雜報

○一旦他人ニ責務セテレタル不働産タルコトヲ知リテ買受ケルノ行為○民法中改正法律ノ發布

律ハ保證人ハ主タル債務ヲ保證スルニ非シテ主タル債務取消ノ場合ニ於テハ同一ノ目的ヲ有スル特別ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス第四四九條是レ保證人カ取消ナルヘキ債務タルヲ知リナカラ之ヲ保證シタルト謂フコトハ其取消サレタル場合ニ於テ自己カ代リテ其義務ヲ盡スト謂フノ意思ヲ以テ債務ヲ負擔シタルモノト解スルハ最モ當事者ノ意思ニ適スル解釋ナレハナリ故ニ此ノ如キ場合ニハ保證人ハ保證債務ヲ負擔シタルニ非シテ全ク獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト謂ハサルヘカラス尤モ此事ハ固ヨリ法律上ノ推定ナルヲ以テ反對ノ證據アレハ之ニ依ルヘキハ勿論ナリトス

無能力者ノ債務ヲ保證シタル場合ニ其取消ノ原因ヲ保證契約ノ當時保證人ニ於テ知レルトキハ後日ニ至リ其債務カ取消サレタルトキト雖モ保證人ハ之ト同一ノ目的ヲ有スル債務ヲ獨立シテ負擔スルモノトス而シテ此場合ニハ最早保證債務ノ性質ヲ失フカ故ニ保證人ハ後日ニ至リ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有セサルハ勿論ナリ

詐欺又ハ強迫ノ爲メ意思表示ニ瑕疵ヲ來シ因テ取消スコトヲ得ヘキ債務ニ付

民法債權 多數當事者ノ債權

テハ法律ニ於テ何等ノ規定ナシト雖モ此等ノ債務モ亦取消サレサル限ハ其存立ヲ認ムルモノナルヲ以テ之ヲ保證シ得ヘキハ勿論ナリ但保證人カ保證契約ノ當時其事情ヲ知レル場合ニハ無能力者ノ債務ニ於ケル場合ト異ナリテ其保證ハ之ヲ無効トセサルヘカラス何トナレハ詐欺若クハ強迫ノ事實ヲ知リツツ其債權者ニ對シテ之ヲ保證スルト謂フコトハ詐欺強迫ヲ獎勵スルノ結果ヲ來シ公ノ秩序ニ反スルモノナレハナリ故ニ此ノ如キ法律行為ハ當然之ヲ無効トスヘキモノトス

無能力ニ因リテ取消シ得ヘキ債務ハ無能力者若クハ其代理人カ之ヲ取消シタル場合ニ於テハ保證人カ如何ナル責ニ任スヘキカハ其保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知レルト否トニ依リ異ナルコトハ前述セルカ如シ然ルニ若シ無能力ニ因リテ取消シ得ヘキ債務ヲ保證人カ知リツツ保證シタル場合ニ於テ主タル債務者カ取消權ヲ拋棄シ而モ其債務ハ之ヲ履行セサルトキハ如何此場合ニ於テモ保證人ハ其履行ノ責ニ任セサルヘカラス元來後ニ述フルカ如ク保證人ハ主タル債務ニ附帶シ居レル無効若クハ取消ノ原因ハ獨立シテ主張スルコトヲ

得ルモノナルカ故ニ主タル債務者カ縱令取消權ヲ拋棄シタルニモセヨ保證人ハ尙ホ主タル債務ノ取消ヲ主張スルコトヲ得ルヤ論ヲ俟タスト雖モ第四百四十九條ニ規定セルカ如ク保證人カ其取消ノ原因ヲ知レルトキハ其取消權ヲ主張スルコトヲ得シテ主タル債務者ノ不履行ノ場合ニハ代リテ其責ニ任セサルヘカラスアルヘシ思フニ第四百四十九條ノ債務者ノ不履行トハ此ノ如キ場合ヲ指シタルナラン然レトモ若シ果シテ此ノ如キ場合ヲ指シタルモノトセハ保證人ノ義務ハ之ヲ獨立シタル義務ナリト謂フハ用語當ヲ得サルモノト思考ス第四百四十九條ノ事項ハ推定スト謂フコトナルヲ以テ若シ反對ノ證據舉リタルトキハ縱令保證契約ノ當時ニ其取消ノ原因ヲ知ルト雖モ依然保證債務ハ普通ノ原則ニ依リ主タル債務ト存廢ノ運命ヲ共ニスルモノナリ

以上述ヘタル如ク債務カ成立シタル以上ハ總テ之ヲ保證スルヲ得ルヲ以テ將來ノ債務其他條件附債務ノ如キモ固ヨリ之ヲ保證スルヲ得ルモノトス第一二九條) 債權者ノ債務者ノ地位ヲ變更シタル場合ニ於テ保證人ノ地位ハ如何ナルカ

保證債務カ從タル債務タル第二ノ結果ハ第四百四十八條ノ規定ニ之ヲ見ル即

チ保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮スルコトヲ要ス債務ノ目的カ主タル債務ヨリ重シトハ主タル債務カ千圓ノ負擔ナルニ拘ハラズ保證人カ千五百圓ノ保證ヲ爲シタル如キ場合ヲ指シ體様カ主タル債務ヨリ重シトハ主タル債務カ條件附債務ナルニ拘ハラズ保證債務カ無條件債務ナル如キ場合ヲ謂フ保證債務ハ元來主タル債務ノ不履行ノ場合ニ代リテ履行ノ責ニ任スル所ノ債務ナルヲ以テ其目的體様ニ於テ主タル債務ヨリモ重シト謂フコトハ道理上アリ得ヘカラサル所ナリ若シ此ノ如キ債務ヲ負擔シタルトキハ法律ハ當然主タル債務ノ限度ニ之ヲ減縮スルモノトセリ右ニ反シテ保證債務カ主タル債務ヨリ輕キコトハ何等保證債務ノ性質ニ反スルモノニ非ス何トナレハ保證債務ハ必スシモ主タル債務ノ全部ヲ保證スルヲ要セスシテ主タル債務ノ一部分ヲ保證スルコトモ固ヨリ爲シ得ルヲ以テナリ又保證債務ハ主タル債務ヨリ重キ目的若クハ體様ヲ有スルコトヲ得サルモ保證人カ其債務ノ履行ヲ確實ニスルカ爲メ保證債務ニ付テ違約金ヲ定メ又ハ損害賠償ノ額ヲ定メ其他特別ノ擔保ヲ提供スルカ如キハ何

等ノ妨ナキ所タリ保證債務ハ主タル債務ヨリ重キ目的體様ヲ有スルヲ得スト雖モ普通ニ主タル債務ニ附隨スル所ノ結果ニ付テハ總テ之ヲ保證シタルモノト看做ササルヘカラス即チ主タル債務カ利息附ナレハ其元金ノミナラズ利息ニ付テモ保證シタルモノト看又主タル債務ニ特ニ違約金ヲ設ケアル場合ハ其違約金ニ付テモ保證シタルモノト看又主タル債務不履行ノ場合ニ生スヘキ損害賠償等ニ付キ保證人モ亦其責ニ任スヘキモノト看ルヘキモノトス要スルニ保證人カ何等特別ノ意思ヲ表示セスシテ債務ノ保證ニ立テタルトキハ其債務ニ普通附隨シテ生スルモノモ當然保證ノ責ニ任スヘキモノト看ルヘキモノニシテ第四四七條唯保證人カ保證契約ニ於テ特別ノ意思ヲ表示シタル場合例ヘハ元金ノミノ保證ニ任シ利息ノ保證ニハ任セストノ意思ヲ表示スレハ保證債務ハ主タル債務ヨリ輕シト謂フコトニ付テ差支ナキヲ以テ其意思ニ從ヒ保證ノ範圍ヲ定ムヘキハ勿論ナリトス

保證債務カ從タル性質ヲ有スル第三ノ結果ハ主タル債務カ消滅シタルトキハ保證債務モ當然消滅スルハ論ヲ埃タス隨テ主タル債務ニ對スル履行ノ請求時

效ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生スルモノトス
 保證債務ノ成立スル場合ニ付テハ或ハ債務者カ保證人ヲ立ツルノ義務ヲ負フ
 場合アリ或ハ主タル債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證スル場合アリ其主タル債
 務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合トハ或ハ法律上其義務ヲ負フ場合アリ
 或ハ裁判ノ結果ニ因リテ其義務ヲ負フ場合アリ或ハ主タル債務者ト債權者ト
 ノ間ニ於ケル契約ノ結果ニ因リテ債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合アリ
 其原因ノ如何ヲ問ハス主タル債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニハ
 何人ト雖モ義務ハ善意ヲ以テ誠實ニ履行セサルヘカラストノ原則ニ基キ債務
 者ハ有效ナル保證人ヲ立テサルヘカラス此事ハ第四百五十條ニ規定シテ即
 ち(一)保證人ハ能力者タラサルヘカラス何トナレハ無能力者ノ保證ハ之ヲ取消
 シ得ヘキヲ以テ此ノ如キ保證人ハ確實ナル保證ノ效力ヲ有スルモノト謂フヲ
 得サルヲ以テナリ(二)辨濟ノ實力ヲ有スルコトヲ必要トス是レ保證人ハ主タル
 債務者ノ不履行ノ場合ニ代リテ履行ノ責ニ任スヘキモノナルヲ以テ其辨濟ノ
 實力ノ必要ナルコトハ言ヲ埃タサレハナリ(三)債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院

ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコトヲ必要トス是レ債權者ノ訴
 追ヲ爲スニ便利ナラシメンカ爲メナリ債務者ハ以上ノ三點ヲ具備シタル保證
 人ヲ選定セサルヘカラス隨テ若シモ一旦選定シタル保證人ニシテ(一)(二)ノ條件
 ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ更ニ其條件ヲ具備スル者ヲ保證人ニ立ツル
 コトヲ請求スルコトヲ得ルモノトス然レトモ本條ハ債務者カ保證人ヲ立ツル
 義務ヲ負フ場合ニ債務者ノ選定スヘキ保證人ハ如何ナル條件ヲ具備スルヲ要
 スルカヲ規定セルモノナルヲ以テ若シ債權者カ保證人ヲ指名シタルトキハ第
 四百五十條ノ適用ナキハ言ヲ埃タス
 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ有スル場合ニ於テ第四百五十條ニ規定セル條
 件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサリシトキハ他ノ擔保ヲ供シテ保證人
 ニ代フルコトヲ得蓋シ保證ヲ立ツルハ其債務ノ履行ヲ確實ニスルノ主旨ニ外
 ナラサルカ故ニ若シ相當ノ保證人ヲ立ツルコトヲ得サル場合ニハ他ノ方法ニ
 依リテ其目的ヲ達シ得ヘキ所ノモノヲ行ハシムルモ不可ナキヲ以テ之ヲ許シ
 タルナリ(第四五一條)

保證債務ハ債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ト然ラサル場合トアリト雖モ其如何ナル原因ニ由ルヲ問ハス保證債務其モノハ債權者ト保證人トノ間ニ於ケル契約ニ因リテ成立スヘキモノトス而シテ其契約ハ普通ニ諾成契約ニシテ片務契約ナリ又従タル契約ノ性質ヲ具フルモノナリトス而シテ其契約ニ對シテハ主タル債務者ハ全ク第三者ノ地位ニ在リテ何等ノ關係ヲ有スルモノニ非ス故ニ保證人ト債權者トノ間ニ於ケル關係ハ其間ニ成立スル保證契約ヨリ生シ主タル債務者ト保證人トノ間ニ於ケル關係ハ委任若クハ事務管理ノ關係ヨリ生スルモノナリ

第二 保證ノ效力

保證ノ效力ニ付テハ之ヲ大別シテ債權者ト保證人トノ間ニ於ケル效力及ヒ債務者ト保證人トノ間ニ於ケル效力トシ向ホ之ニ附隨シテ多數保證人ノ場合ニ於ケル效力及ヒ連帶保證ノ效力ニ付テ説明セントス

第一 債權者ト保證人トノ間ニ於ケル效力 債權者ト保證人トノ間ニ於ケル效力ハ之ヲ約言スレハ(一)保證契約ハ債權者ト保證人トノ間ニ於ケル獨立ノ契

約ナリ(二)保證債務ハ従タル性質ヲ有スル債務ナリ(三)保證債務ハ主タル債務者カ債務ヲ履行セザルトキニ代リテ其債務ヲ履行スヘキ補充ノ性質ヲ有スルモノナリ(四)保證債務ハ債務ヲ履行シタル以上ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ生スルモノナリトノ四點ヨリ生ス左ニ之ヲ説明セシ

(一) 保證契約ハ債權者ト保證人トノ間ニ於ケル獨立ノ契約ナリ 其結果トシテ債權者ハ保證人ニ對シテ獨立シテ契約ノ結果ヲ行フコトヲ得又保證人ハ債務者ニ對シテ自己ニ關スル法律行為ノ無効又ハ取消原因ノ存スル場合ニハ之ヲ債權者ニ對抗スルコトヲ得即チ若シ保證人ノ意思表示ニ錯誤若クハ瑕疵アルカ又ハ自身無能力者ナル場合ニハ保證人ハ主タル債務ノ存立如何ニ關セス自己固有ノ原因ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

(二) 保證債務ハ従タル債務ナリ 故ニ保證債務ハ主タル債務ニ付テ存セル無効若クハ取消ノ原因ヲ債權者ニ對抗スルコトヲ得例ヘハ主タル債務カ無効ノ債務ナルトキハ保證人ハ其理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得又主タル債務カ取消シ得ヘキ債務ナル場合ニハ保證人ハ依然取消ノ原因ヲ以テ債權者ニ

對抗スルコトヲ得此保證人カ債務者ニ對シテ主タル債務ニ付テ存スル所ノ事
由ヲ對抗スルト謂フコトハ保證人固有ノ權利ニシテ主タル債務者ニ代リテ對
抗スルモノニ非ス故ニ若シ主タル債務者カ取消シ得ヘキ債務ノ場合ニ於テ其
取消權ヲ拋棄シタルコトアリトスルモ之カ爲メニ保證人ハ其取消權ノ對抗ヲ
妨ケラレルコトナシ

右ト同様ノ趣旨ヲ以テ第四百五十七條第二項ニ保證人カ主タル債務者ノ債權
ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ルコトヲ規定セリ蓋シ保證債務
ハ從タル性質ヲ有スルヨリ主タル債務ノ消滅ハ保證債務ノ消滅ヲ來スモノナ
ルカ故ニ債務消滅ノ一方法タル相殺ノ對抗ヲ許セシハ至當ノコトナリトス但
相殺ハ當事者ニ限り之ヲ爲スヲ得ルモノナルカ故ニ第三者タル保證人ヲシテ
之ヲ援用セシメントスルニハ特ニ法ノ明文ヲ要ス是レ第四百五十七條第二項
ノ規定アル所以ナリ

(三) 保證債務ハ主タル債務者カ債務ヲ履行セザルトキハ代リテ其債務ヲ履行
スヘキ補充ノ性質ヲ有スル債務ナリ即チ其結果トシテ若シ債權者カ保證人

ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ以テ主タル債務者ニ催告ヲ爲
スヘキコトヲ請求スル權利ヲ有ス(第四五二條)主タル債務者カ催告ヲ受ケタル
ニ拘ハラス尙ホ債務ノ履行ヲ爲サザルトキハ保證人ハ始メテ其履行ノ責ニ任
スヘキモノトス但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ辨濟ノ實力ヲ缺クニ至リ
タルカ又ハ其行方知レスシテ容易ニ催告ヲ爲スヲ得ザルトキニ於テモ尙ホ債
權者ヲシテ其破産財團ニ加入セシメ又ハ行方ノ知ルルヲ待テテ催告ヲ爲サシ
ムルカ如キハ非常ニ債權者ノ利益ヲ害スルニ至ルヘキヲ以テ此場合ニ於テハ
主タル債務者ニ催告ヲ爲スヲ要セシテ直チニ保證人ニ履行ヲ請求スルコト
ヲ得セシメタリ

次ニ債權者ハ若シ保證人カ債務者ニ辨濟ノ實力アリ且其執行方法ノ容易ナル
コトヲ證明シタルトキハ先ツ以テ債務者ノ財産ニ付テ執行ヲ爲サザルヘカラ
ス(第四五三條)是レ亦保證債務カ補充ノ性質ヲ有スルヨリ生スル所ノ結果ナリ
而シテ此事ハ縱令債權者カ保證人ノ請求ニ應シテ主タル債務者ニ催告ヲ爲シ
タル後ト雖モ保證人カ本條ノ證明ヲ爲シタルトキハ債權者ハ更ニ進ミテ債務

者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲ササルヘカラスシテ債務者カ催告ニ應シテ履行セザルノ一事ヲ以テ直チニ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求スルヲ許サス但保證人ヲ立テタル趣旨ハ素ト債權者ノ利益ヲ保護スルニ在リ即チ債務ノ履行ヲ確實ニスルニ在ルヲ以テ若シ債務者ノ資力不確實ナルカ又ハ執行方法非常ニ困難ナル場合ニ於テモ尙ホ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行セザルヲ得サルモノトスルハ徒ニ履行ノ遅延ヲ來スニ過キサルコトアルヘク爲メニ債權者ノ利益ヲ害スルコト甚シキノミナラス取引ノ迅速ヲ缺クヲ以テ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行セシメントセハ保證人ヲシテ債務者ノ資力ノ確實ナルコト及ヒ其執行ノ容易ナルコトヲ證明スル責ニ任セシメタリ本條ニ依リ債權者カ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲シ債務ノ一部辨濟ヲ受ケタル場合ニハ保證人ハ唯其殘額ニ付テノミ履行ノ責ニ任スルコトハ固ヨリ言フ埃タス此第四百五十二條ノ催告ヲ請求スルコト第四百五十三條ノ債務者ノ財産ニ付テ最先ニ執行ノ請求ヲ爲スコトノ二點ハ全ク保證債務カ補充ノ性質タルヨリ來ル結果ナリ然レトモ若シ保證人カ此權利ヲ拋棄スルカ又ハ保證人カ主タル債務者ト連帶シ

テ債務ヲ負擔シタル場合ニハ該條ニ依ル抗辯權ヲ有セザルナリ

右ノ場合ニ於テ若シ債權者カ保證人ノ請求アリタルニ拘ハラズ主タル債務者ニ對シテ催告ヲ爲ササルカ又ハ保證人ヨリ辨濟ノ資力アルコトヲ證明シタルニ拘ハラズ主タル債務者ニ對シテ執行ヲ爲サザリシカ爲メニ債權者カ全部ノ辨濟ヲ得ル能ハサル事實生シタルトキハ其辨濟ヲ受ケタル能ハザリシ部分ニ對シテハ保證人ハ其責ヲ免ル是レ債權者ノ過失ニ因リテ生シタル所ノモノナルニ由リ債權者ヲシテ其責ニ任セシムルハ固ヨリ當然ノコトナリ(第四五五條)

(四) 保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス 保證人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ其結果トシテ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス而シテ右求償權ハ自己固有ノ權利ニ依リ債務者ニ對シテ償還請求ヲ爲スノ外債權者ニ代位シテ其權利ヲ行フコトヲ得故ニ若シ債權者ノ行為ニ因リテ保證人カ代位訴權ニ依リ償還請求ヲ爲スヲ得サルカ如キ場合ニ陥リタルトキハ保證人ハ債權者ニ對シテ履行ノ責ヲ免ルルモノナリ此事ニ付テハ第五百四條ニ規定シアリ即チ保證人カ債權者ノ權利ニ代位スル場合ニハ其債權ニ附著セル擔保ノ權利ヲモ併セ行フ

コトヲ得然ルニ債權者カ若シ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失シ若クハ減少シタル場合ニハ保證人ハ其責ヲ免ルルモノトス尤モ此事ニ付テハ第一其擔保ノ喪失若クハ減少カ債權者ノ責任ニ歸スル場合ナラサルヘカラス故ニ若シ其擔保物カ不可抗力等ニ因リテ滅失若クハ減少シタルトキハ固ヨリ保證人ハ其責ヲ免ルヘキモノニ非ス第二其擔保ノ滅失若クハ減少ノ爲メニ保證人カ償還ヲ受クルコト能ハサル事實ニ立至リタル場合ナラサルヘカラス故ニ若シ擔保ノ滅失若クハ減少アリタリトスルモ之カ爲メニ保證人ノ償還ヲ得ルニ何等妨ヲ生セサル場合ニハ保證人ハ第五百四條ニ依リテ其責ヲ免ルヘキモノニ非ス

之ヲ要スルニ保證人ト債權者トノ間ニ於ケル保證ノ效力ハ以上述ヘタル如ク第一保證契約ハ債權者ト保證人トノ間ニ於ケル獨立ノ法律行為タルコト第二保證契約ハ從タル性質ヲ有スル法律行為タルコト第三保證契約ハ補充ノ性質ヲ有スルモノナルコト第四保證人ハ主タル債務者ニ對シテ償還請求ノ權利ヲ有スルコトノ四點ヨリシテ總テ生スルモノナリ

第二 保證人ト債務者トノ間ニ於ケル保證ノ效力 保證人ト債務者トノ間ニ於ケル保證ノ效力ハ保證ノ契約ニハ何等ノ關係ナク全ク他ノ法律關係ヨリ生スルモノナリ即チ保證人カ債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲シタル事實ヨリ生スル所ノモノナリ保證人カ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ主タル債務者ニ對シテ償還請求ノ權利ヲ有ス此償還請求ヲ爲スニ當リテハ保證人ハ代位訴權ニ依リテ債權者ノ權利ヲ行使スル場合アリ又保證人カ自己固有ノ權利ニ基キ償還請求ヲ爲スコトヲ得ル場合アリ代位訴權ニ依ル場合ハ後ニ辨濟ノ事ヲ説クニ當リテ說明セン保證人カ自己固有ノ權利ニ基キテ償還ノ請求ヲ爲ス場合ハ即チ本節ニ規定スル所ノ償還請求權ニ依リテ保證人ノ償還請求權ハ二ニ區分スルコトヲ得一ハ委任ノ關係ヨリ來リ一ハ事務管理ノ關係ヨリ來ルモノナリ即チ保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於ケル償還請求權ハ委任ノ關係ヨリ來リ主タル債務者ノ委託ヲ受ケスニテ保證ヲ爲シタル場合ノ償還請求權ハ事務管理ノ關係ヨリ來ルモノナリ

(一) 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於ケル償還

請求權 此場合ニ於ケル求償ノ範圍ハ第四百四十二條第二項ノ規定ニ依リ第一ニ其辨濟シタル元金第二ニ之ニ對スル法定ノ利息第三ニ辨濟ヲ爲スニ當リ必要ニシテ避クルコトヲ得サリシ費用其他損害ノアリタルトキハ其賠償ヲモ併セテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得要スルニ委任ヲ受ケタル場合ハ保證人ノ支出シタル一切ノ費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得是レ第六百五十條ノ委任事務處理ノ場合ニ於ケル法理ノ適用ニ外ナラス勿論右ノ場合ニ於テモ保證人ニ過失アリタル場合例ヘハ保證人カ債權者ニ對シテ對抗スルコトヲ得ル抗辯ヲ有シタルニモ拘ハラズ之ヲ援用セサリシカ爲メニ其債務ノ辨濟ヲ爲ササルヘカラサルニ至リタルカ如キ場合ニハ過失ノ結果ハ自ラ負擔セサルヘカラサルヲ以テ償還請求ヲ爲スノ權ナシ(第四五九條第四六三條)又委託ヲ受ケテ保證シタル場合ニ於テハ主タル債務者モ第四百四十三條ニ規定シタルカ如キ過失ヲ犯シタル場合ニハ保證人ニ對シテ其責ヲ負ハサルヘカラス

保證人カ主タル債務者ニ償還請求ヲ爲スコトヲ得ル時期ハ債權者ニ辨濟スヘキ裁判官渡ヲ受ケタルトキ又ハ債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲シ若クハ債務ヲ消滅

上ノ理由ニ出ツルモノナルカ故ニ之ニ反スル契約ハ其效ナシ但第三者カ或社員ニ對シ此責任ヲ免除スルコトハ固ヨリ其自由ナリ此免除ノ意思表示ハ會社債務ノ發生以前ニ爲スモ或ハ發生以後ニ之ヲ爲スモ其效力ニ於テ異ナル所ナシ

商法第六十三條ニハ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員ハ連帶シテ辨濟ノ責ニ任ストアリテ此法文ヲ一讀スルトキハ社員ノ連帶責任ハ會社財産カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ始メテ發生スルモノノ如シト雖モ決シテ然ラス社員ノ義務ハ社員タル資格ヲ取得スルト同時ニ直チニ發生シ唯會社財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハサルトキニ非サレハ社員ハ其辨濟ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルノミナリ故ニ會社ノ債權者カ社員ニ對シテ辨濟ヲ請求スルニハ先ツ會社ニ對シテ辨濟ヲ請求シ破産若クハ強制執行ノ結果辨濟ヲ得サリシ部分カ確定シタル後ナラサルヘカラス社員ハ相互ニ連帶ノ關係ヲ有ストモ會社ト社員トノ間ニハ連帶ノ關係ナシ

社員カ會社ノ債務ニ付テ第三者ニ對シテ負フ所ノ義務ハ一ノ保證債務ナリ保

證債務ハ主タル債務者カ債務ヲ履行セザル場合ニ於テ之ニ代リテ履行ノ責任スルモノナルコトハ民法第四百四十六條ノ規定スル所ナリ合名會社ノ社員ハ會社カ其財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ私産ヲ以テ辨濟ノ責任スルモノナルカ故ニ之ヲ保證債務ナリト論スルハ正當ナリ唯其效果カ一般ノ保證債務ト少シク異ナル所アリ即チ左ノ如シク

(一) 社員ハ各自連帶シテ辨濟ノ責任スレトモ一般ノ保證債務ニ於テ保證人數人アルトキハ其義務ハ保證人間ニ分割セラル(民法第四五六條商法第六三條參照)

(二) 一般ノ保證債務ニ於ケル保證人ハ主タル債務者カ履行ヲ爲サザルトキ其履行ノ責任スルモノニシテ檢索ノ利益ハ一般ノ抗辯タルニ過キス故ニ保證人カ此抗辯ヲ提出セザリシトキハ縱令主タル債務者ニ辨濟ノ資力アル場合ニ於テモ保證人ハ其實ヲ盡サザルベカラズ之ニ反シ合名會社ノ社員ハ會社財産カ其債務ヲ完済スルコト能ハナラシトキニ至リ始メテ辨濟ノ責任スルモノナリ故ニ債權者ハ會社ノ無資力ナルコトヲ立證シタル後ニ非テハ保證人タル

社員ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得ス社員カ檢索ノ抗辯ヲ提出スルト否トハ關係ナシ民法第四五二條第四五三條參照)

以上ニ掲ケタル二點ヲ除キ其他ノ保證債務ニ關スル民法ノ規定ハ合名會社ノ社員ノ義務ニ付テモ亦適用セラル社員ノ此義務ハ法律ノ規定ニ依ル保證債務ナリ

社員ノ無限責任ハ會社カ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス第一〇三條社員カ會社ノ存續中退社シ又ハ持分ノ全部ヲ讓渡シタルトキハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(第七三條參照)

會社ノ債務ニ對シテ辨濟ノ責任ヲ負フ者ハ各社員ナリ故ニ特ニ業務執行社員ノ定アル場合ニ於テモ他ノ社員モ亦連帶責任アリ而シテ既ニ社員タル以上ハ會社ノ設立以後ニ於テ加入シタル者ト雖モ加入前ノ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此義務ハ法律ノ命スル所ニシテ之ヲ免レシムヘキ契約ヲ爲スモ第三者ニ對シ其效ナシ但第三者カ之ヲ免除シ得ルコトハ論ヲ缺タズ社員ノ入社ハ登記スヘキ一ノ事項ナレトモ其社員ノ責任ハ登記ヲ要セスシテ入社ト同時ニ發生ス

(第六四條參照)

以上ハ會社ノ社員タル者ノ責任ニ付テ説明シタルモノナレトモ現實會社ノ社員ニ非ナル者ニシテ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ者アリ即チ左ノ如シ

(一) 自己ヲ社員ナリト信セシメタル者(第六五條參照)

現實會社ノ社員タラストモ第三者ニ對シ恰モ社員タルカ如キ行爲ヲ爲シタル者ハ善意ノ第三者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ是レ合名會社ハ社員ノ信用ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ此ノ如キ規定ヲ設クタルナリ惡意ノ第三者ニ對シテハ此規定ヲ適用セズ此者ノ責任ハ其行爲アリタル後ニ生シタル會社ノ債務ニ對シ其以前ノ債務ニ及ハス又其責任ハ社員ト連帶ナリ

(二) 退社員(第七三條第一項參照)

退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス退社ノ登記後ニ生シタル債務ニ付テ責任ナキハ勿論ナリ法律カ登記前ノ債務ニ付キ退社員ニ責任ヲ負ハシメタル所以ノモノハ第三者ハ其退社シタル社員ニ信用ヲ置キ會

社ト取引ヲ爲シタルヤモ計ラレス然ルニ退社ト共ニ全ク責任ヲ免レシムルトキハ第三者ニ不測ノ損害ヲ加フ且時トシテハ第三者ヲ欺クカ爲メニ一時信用アル者ヲ入社セシメ取引後直チニ退社セシムルカ如キコトナシトモ此等ノ詐欺ヲ防キ第三者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニハ退社員ヲシテ責任ヲ負ハシムルコト必要ナリ唯制限ナク責任ヲ負ハシムルハ第三者ヲ保護スルニ偏シ退社員ノ爲メニ甚タ苛酷ナリ故ニ法律ハ其責任期間ヲ登記後二年トセリ此責任ノ消滅ハ時效ニ依ルモノニ非ス故ニ法定ノ期間ヲ經過スレハ當然消滅ス

(三) 持分ヲ讓渡シタル社員

持分全部ノ讓渡ハ社員ノ變更ヲ惹起シ讓渡人ハ之ニ因リ會社ヨリ脱退ス故ニ其讓渡人ニ對シ退社員ト同一ノ責任ヲ負ハシメタルハ其當ヲ得タルモノナリ

(第七三條第二項參照)

第六章 解散

合名會社ハ社員ノ意思ニ因リテ解散スルコトアリ又社員ノ意思ニ因ラスシテ

解散スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ解散後會社ハ其營業上ノ存在ヲ失フモ止マリ絕對的ニ消滅セザルヲ原則トス純理上ヨリ謂フトキハ會社ノ解散ハ會社ナル範圍ノ消滅ニシテ之ヲ法人ノ點ヨリ觀察スレハ人格ノ喪失ナリ會社ノ解散前ニ生シタル法律關係ニシテ解散ノ當時未タ終了セザルモノハ解散ニ因リテ其主體ヲ失フカ爲メ之ト同時ニ消滅セザルヘカラス會社財產ハ無主物ト爲リ會社債權者ハ其權利ヲ失フ此ノ如キハ論理ノ結果ナレトモ公益上許スヘキ事項ニ非ス是ヲ以テ法律ハ解散ノ後ト雖モ會社ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做スト規定セリ(第八四條參照)故ニ法律上解散トハ清算ヲ必要トセザル場合ニ於テノミ會社ノ絕對的消滅ヲ生スル原因ナレトモ其他ノ場合ニ於テハ會社ノ營業能力喪失ノ原因タルニ過キス會社力解散スルモ清算ヲ必要トセザル最モ著シキ例ハ合併ニ因リテ解散スル場合はナリ此場合ニハ合併ニ因リテ解散スル所ノ會社ノ權利義務ハ合併後尙ホ存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ承繼セララルカ故ニ敢テ清算ヲ爲ス必要ナク會社ハ解散ニ因リテ絕對的ニ消滅ス其他定款ヲ以テ會社解散シタルトキ

其一切ノ權利義務ハ當然或社員ニ承繼セララルコトヲ規定シタル場合ニ於テモ亦會社ノ解散ニ因リテ絕對的ニ消滅ス之ヲ要スルニ解散ハ二三ノ場合ヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ會社ノ營業能力喪失ノ原因ニシテ絕對的消滅ノ原因ニ非ス解散前ノ會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トシ解散後ノ會社ハ會社財產ノ處分ヲ以テ目的トシ二者全ク其性質ヲ異ニスレトモ法律ハ便宜上之ヲ以テ同一ノ會社ト看做セリ

第一節 解散ノ原因

第一款 存立時期ノ滿了其他定款ニ定ムル事

是レ商法第七十四條第一號ニ規定スル解散ノ原因ニシテ會社力之ニ因リテ解散スルハ多言ヲ要セズ此場合ニ於テ社員ノ全部又ハ一部ハ其同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得純理ヨリ謂フトキハ會社ハ存立時期ノ滿了其他解散ノ事由發生ニ因リテ當然解散スヘキ地ノナルカ故ニ社員ハ一旦解散ノ手續ヲ爲シタル上ニ更ニ新設ノ手續ヲ爲サザルヘカラス然レトモ此ノ如クハ無用ノ手續

ヲ爲シ毫モ實際上ニ利益ナキカ故ニ法律ハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ前會社ヲ繼續スルコトヲ許セリ但此場合ニ於テ同意ヲ爲サザリシ社員ヲ強制シテ依然社員タル資格ヲ有セシムルハ穩當ナラサルヲ以テ不同意ノ社員ハ當然退社シタルモノト看做ス此ノ如ク法律ハ會社ヲ繼續ヲ以テ會社ノ變更ト看做スカ故ニ此場合ニハ設立ニ要スル手續ヲ爲スノ必要ナシ唯第五十三條ニ依リ變更ノ登記ヲ爲スヲ以テ足レリトス同意セザリシ社員ニハ持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ要シ又此社員ト雖モ前會社ノ債務ニ付キ退社ノ登記後二年間ハ責任ヲ負擔セザルヘカラス(第七五條參照)

第二款 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功

會社ハ一定ノ商業ヲ營ムヲ以テ其目的トス然ルニ其目的ヲ達シタルトキハ結局目的ナキニ至リタルモノナリ又其目的カ到底成功セザルニ至リタルトキハ目的ナキト同時ニ論スルコトヲ得故ニ此ニツク場合ニ於テ會社カ解散スルハ當然ナリ目的ノ成功ノ不能ハ法律上ノ理由ニ因リテ生スルコトアリ又經濟上

ノ理由ニ因リテ生スルコトアリ會社ノ事業カ經濟上ノ狀況ノ爲メニ到底損益相償ハサルニ至リタルトキハ之ヲ以テ目的ノ成功不能ニ至リタルモノト看ルコトヲ得(第七四條第二號參照)

第三款 總社員ノ同意

總社員ハ合名會社ノ最高機關ニシテ此機關ノ決議ヲ以テ會社解散ノ原因ト爲シタルハ至當ナリ此決議ハ即時ニ會社ヲ解散セシムヘキコトヲ目的トセザルヘカラス將來ニ於テ會社ヲ解散セシムヘキコトヲ目的トスル決議ハ愛ニ所謂解散ノ決議ニ非スシテ存立時期若クハ解散事由ニ關スル定款ノ變更トシテ見ルヘキモノナリ解散ノ決議ハ存立時期ノ定アルト否トヲ問ハス何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得第七四條第三號參照

第四款 會社ノ合併

合併トハ二ツ以上ノ會社ヲ相合シテ一ツノ會社ト爲スヲ謂フ其方法ニエアリ

一ハ甲會社カ解散シ乙會社ニ加入シ一ハ甲乙二會社カ各自解散シ新ニ丙會社ヲ設立スルモノヲ謂フ第一ノ方法ニ依ルトキハ合併ハ甲會社解散ノ事由乙會社變更ノ事由ニシテ第二ノ方法ニ依ルトキハ合併ハ甲乙二會社ノ解散ノ事由丙會社設立ノ事由ナリ此ノ如ク合併ノ效果ハ會社ノ解散ノミニ限ラスト雖モ商法第七十四條第四號カ之ヲ以テ解散ノ事由ト爲シタルハ合併ニ因リテ解散スル會社ノ方面ヨリ觀察シタルモノナリ然レトモ合併ハ解散ノ外ニ會社ノ變更若クハ設立ヲ生スルカ故ニ其變更ヲ受クル會社又ハ新ニ設立スル會社ニ在リテハ其會社ノ種類ニ從ヒ之ニ必要ナル手續ヲ爲スコトヲ要スルハ論ヲ埃タズ本款ニ於テ説明スル所ハ合名會社カ合併ニ因リテ解散スル場合ニ關スル法則ノ説明ナリ會社ノ合併ハ舊商法ノ認メタル所ナリシト雖モ實際上ノ必要ハ會社ノ合併ヲ認メサルヘカラサルニ至リ明治二十九年法律第八十五號ヲ以テ銀行合併法ヲ發布シタリ然レトモ銀行以外ノ會社ニハ合併ノ方法ナカリシ爲メ甚タ不便ヲ感シタリ新商法カ廣ク會社ノ合併ヲ認メタルハ此實際上ノ必要ニ應シタルナリ

合名會社カ他ノ會社ト合併スルニハ總社員ノ同意ヲ必要トス第七條參照合名會社カ他ノ合名會社ト合併スルコトヲ得ルハ論ヲ埃タサレトモ種類ノ異ナリタル他ノ會社ト合併スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ此點ニ付テハ二說アリ第一說ニ曰ク種類ノ異ナリタル會社ハ互ニ合併スルコトヲ得ス我商法ハ特ニ認メタル二三ノ場合ニ限リ會社組織ノ變更ヲ許セリ然ルニ種類ノ異ナリタル會社ノ合併ハ會社組織ノ變更ヲ惹起スルカ故ニ此ノ如キハ法律ノ認メタル所ナリト解スルヲ至當トスト第二說ハ合併ニ付キ法律上何等ノ制限ナキカ故ニ種類ノ異ナリタル會社ト雖モ互ニ合併ヲ爲スコトヲ得ト論セリ予輩ハ此二說ヲ以テ其ニ論斷シ廣キニ失スルモノアリト信ス予輩ハ言ハント欲ス種類ノ異ナリタル會社ト雖モ會社組織ノ變更ヲ惹起ササル範圍内ニ於テハ合併スルコトヲ得ト抑モ會社組織ノ變更ハ法律カ特ニ之ヲ認メタル二三ノ場合ニ於テノミ爲スコトヲ得ルコト第一說ノ云フカ如シ第一一八條第二四七條第二五二條參照故ニ此二三ノ場合ヲ除キテハ如何ナル場合ニ於テモ會社組織ノ變更ハ法律ノ許ササルモノナリト解スルヲ至當トス然レトモ異種類ノ會社ノ合併

ハ必スシモ會社組織ノ變更ヲ生スルモノニ非ス會社組織ノ變更ヲ惹起ササル
 場合ニ於テ其合併ヲ認メサルノ理由ナシ一例ヲ以テ之ヲ示セハ合名會社ト合
 資會社トカ合併シ合名會社カ解散シ合資會社カ存続スル場合ニ於テハ合資會
 社ハ其定款ニ變更ヲ受クルコトアルモ其組織ヲ變更スルコトナシ又之ト同シ
 ク合資會社カ解散シ合名會社カ存続スル場合ニ於テモ合資會社ノ有限責任社
 員カ無限責任社員ト爲ルコトヲ承諾シタルトキハ必スシモ組織ノ變更ヲ生ス
 ルモノニ非ス此他合名會社ト株式會社トカ合併シ新ニ株式合資會社ヲ設立ス
 ル場合ニ於テハ毫モ會社組織ノ變更ナルモノナシ故ニ異種類ノ會社ノ合併ハ
 常ニ會社組織ノ變更ヲ生スルモノトシ絶對的ニ之ヲ許ササルモノト解スルハ
 誤レリ然レトモ第二說ノ如ク如何ナル場合ニ於テモ異種類ノ會社ノ合併ヲ認
 ムルハ稍ヤ廣キニ失ス之ヲ要スルニ合名會社ハ會社組織ノ變更ヲ生セサル限
 リ異種類ノ會社ト合併スルコトヲ得
 會社ノ合併ハ會社ノ債權者ニ大ナル利害ノ關係ヲ有ス例ヘハ負債少キ會社カ
 負債多キ會社ト合併スルトキハ前者ノ債權者ハ之カ爲メニ其擔保ヲ減セラ

ル結果ヲ見ルコトアルカ如シ是ヲ以テ商法ハ一方ニ於テ會社ノ便宜ヲ圖リ合
 併ヲ爲スヲ許シタルト同時ニ他方ニ於テ債權者ノ利益ヲ保護センカ爲メ種種
 ナル規定ヲ設ケタリ即チ商法第七十八條乃至第八十條ニ規定スルモノ是ナリ
 此等ノ規定ニ依レハ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週
 間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り以テ會社財産ノ狀況ヲ明カニシ且二箇
 月以上ノ期間ヲ定メテ債權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知
 レタル債權者ニハ各別ニ催告セラルヘカラス債權者カ其期間内ニ異議ヲ述ヘ
 サリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做シ直チニ合併ヲ爲スコトヲ得ルモ
 之ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ其異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ
 又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレバ合併ヲ爲スコトヲ得ス若シ辨濟又ハ擔保
 ノ供給ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ
 對抗スルコトヲ得ス故ニ會社ハ債權者ニ異議アルトキハ絶對的ニ合併ヲ爲ス
 コトヲ得スト謂フニ非スシテ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得サルノミ
 又債權者ニ對シテ一定ノ期間内ニ異議ヲ述フルコトヲ得ル旨ノ公告ヲ爲サス

又ハ知レタル債權者ニ對シ異議申立ノ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ總テノ債權者又ハ催告ヲ受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス會社ノ業務ヲ執行スル社員カ此等ノ手續ヲ履行セスシテ合併ヲ爲シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ(第二六二條第二號參照)

合併ノ效果ハ合併スル會社ニ依リテ異ナリ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ爲メニハ解散ノ效果ヲ生シ合併後存續スル會社ノ爲メニハ定款變更ノ效果ヲ生シ合併ニ因リテ成立スル會社ノ爲メニハ設立ノ效果ヲ生ス此他合併ノ重要ナル效果ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼スルコト是ナリ(第八二條參照)

且テ會社カ合併シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス(第八一條參照)

第五款 社員カ一人ト爲リタルコト

民法第六十八條第二項ノ規定ニ依レハ社團法人ハ社員ノ缺乏ニ因リテ解散スルモ社員カ一人ト爲リタルカ爲メ當然解散スルコトナシ然ルニ合名會社ハ社員カ一人ト爲リタルトキ當然解散ス(第七四條第五號參照)是レ民法ト商法ト異ナル點ナリ社團法人ノ解散ニ關シテハ學理上三說アリ第一ハ社團法人ハ社員ヨリ成ルモノナルカ故ニ社員缺乏スルニ至リテ解散ス社員カ一人ト爲リタルノミニテハ未タ其基礎ヲ失フモノニ非ナルヲ以テ當然解散スルコトナシト謂ヒ第二ハ社團法人ハ人格ヲ有スル社團即チ人ノ團體ニシテ社員カ一人ト爲リタルトキハ最早之ヲ社團ト云フコト能ハサルカ故ニ當然解散セサルヘカラス社員ノ缺乏ヲ待ツ必要ナシト謂ヒ第三ハ社團法人カ一旦成立シタル以上ハ其生存上社員ノ變更増減若クハ消滅ニ何等ノ關係ヲ有スルモノニ非ス故ニ社員缺乏スルモ當然解散スルコトナシト謂フニ在リ予輩ハ此三說中第二說ヲ以テ穩當ナリト信ス抑モ社團法人ハ社團カ人格ヲ有スルモノナルカ故ニ社員カ一

人ト爲リタルトキハ最早之ヲ社團ト云フヘカラナルヲ以テ當然解散セザルヘカラス唯營利ヲ目的トセザル社團法人ハ成ルヘク永ク存続セシムルコトヲ公益上便宜トスルカ故ニ民法ハ社員カ一人ト爲リタルノミヲ以テハ未ダ社團法人ノ解散ヲ生セシメス然ルニ會社ハ社員ノ利益ヲ目的トスル法人ニシテ社員カ唯一人ト爲リタルトキハ商業上ニ於ケル團體ヲ保護シ監督スルカ爲メニ設ケラレタル會社法ノ規定ヲ之ニ適用スルハ穩當ナラス要スルニ社員カ一人ト爲リタルトキハ一箇人タル商人ト區別スルニ必要ナキカ故ニ法律ハ之ヲ會社トシテ繼續セシムルコトヲ認メス

第六款 破産

會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トス然ルニ破産ノ宣告ヲ受タルトキハ會社ハ營業上ノ能力ヲ失フ是レ破産ヲ以テ解散ノ原因ト爲シタル所以ナリ(第七四條第六號參照)

第五款 社員カ一人ト爲リタルトキハ

事故ニハ發生夫レ自身カ不定ナルト發生ノ時期カ不定ナルトノ二種アリ例ヘハ火災保險ノ如キニ於テ火災カ發生スル場合ト發生セザル場合アリト雖モ生命保險ノ如キニ於テハ死亡ハ必ス發生スレトモ其時期不定ナリ前ノ場合ニ於テハ保險者ノ保險金支拂義務ハ條件ニ屬シ後ノ場合ニ於テハ期限ニ係ルノ區別アリ然レトモ此區別ハ單ニ言語ヲ弄シタルニ過キス或一定ノ契約期間ニ於テハ死亡モ火災モ發生夫レ自身カ不定ナリト謂フテ可ナリ而モ保險法學者ノ中ニハ不測ト不確定ノ區別ヲ立テテ論スル人多キカ故ニ茲ニ一言シタルナリ

又事故ハ經濟的損害ヲ惹起スモノタルヲ要ス經濟的損害トハ金錢ニ見積リ得ヘキ損害ノ謂ニシテ保險契約ニ因リテ償ハルル所ノ損害ハ總テ財産上ノ損害ナリ我商法ハ之ニ反對ノ趣旨ヲ以テ保險ニ依リテ填補セラレル損害ハ經濟的損害ト又他ノ種類ノ損害モアリト信スルカノ如ク規定セラレルヲ見ル他ノ種類ノ損害トハ人ノ生死ノ發生ニ伴ヒテ起ル損害ノ如キハ金錢ヲ以テ計ルヘカラスシテ愛情ノ損喪ナリト謂フカ如シ果シテ此ノ如キ主義ナレハ前述ノ定義ニ該當セザルモノニ非スシテ別ニ新機軸ヲ出シタルモノト謂フヘシ

第四 財産ノ供出ニ事故ノ發生ニ際シテ保險者カ供出スヘキ財産ヲ保險金ト謂ヒ通常金銭ヲ以テ支拂フト雖モ其目的トスル所ハ元來利益ヲ保全スルニ在ルカ故ニ其目的ノ達セラルルニハ必スシモ金銭ヲ以テスルヲ要セス保險ニ付セラレタル物件ヲ現形ニ復スルコトヲ得レハ可ナリ

第五 獨立ノ合意 獨立ノ合意トハ他ノ契約ニ附隨シテ存在スルモノニ非スシテ單獨ニ成立シ得ル契約ヲ謂フナリ或性質ニ於テ保險契約ニ類似セルモノアリ例ヘハ保證ノ如キ屢保險ト混淆セララルゴトアリ保險附時計或ハ保險附傘ト稱ヘテ恰モ保險者カ危險ノ負擔ニ任スルカ如キ體裁ヲ以テ保證ヲ爲スコトアリ然レトモ此ノ如キ行爲ハ決シテ單獨ニ存立スルモノニ非ス時計又ハ傘ヲ販賣スル者カ其物品ニ自己ノ所信ヲ主張スル結果トシテ或一種ノ賣ヲ負擔スルニ過キス故ニ其負擔スル所ハ大抵品質ニ原因スル損害ヲ指シ外圍ノ損害ニ付テ賣ヲ負フモノニ非ス即チ賣買ノ契約ニ附隨シテ發生スル所ノモノナリ又口入業者カ雇人ノ身元引受ヲ爲スハ身元引受保險ニ似タリト雖モ前者ハ雇傭契約ニ附隨シテ行ハレ後者ハ之ト無關係ニ成立スル相違アリ又運送人カ貨

物ノ運搬中其損害ヲ負擔スル約束ヲ結フカ如キハ運送契約ト云ヘル主タル契約ニ附隨シテ行ハラルニ過キス保險契約モ歴史のニ其起原ニ遡ラハ此ノ如キ現象ニ基因セリト云フヘント雖モ現今ニ在リテハ一箇獨立シタル契約ノ種類ヲ形造リ貨物ノ製造者又ハ賣主ニ非スシテ損害ノ補償ヲ爲シ口入業者ニ非スシテ身元引受金ヲ拂ヒ運送人ニ非スシテ運送中ノ危險ヲ負擔スル專業者發生シ來リ此等ノ者ノ約スル所ノ契約ヲ保險契約ト謂フ

以上ヲ以テ保險契約ニ對スル「エレンベルヒ」氏ノ定義ヲ説明シ了レリ而シテ之カ果シテ保險契約ヲ解説シ盡セリヤト言フニ予ハ尙ホ少シク足ラサルナキヤラ疑フ者ナリ即チ氏ハ危險發生ノ期間ノ「エト」ヲ論セス又契約ノ集合ヲ考慮セテレハナリ

當事者ノ一方カ損害ヲ受ケテ他ノ一方ニ填補セシメ得ル期間ハ豫定セラレタルモノナラサルヘカラス之ヲ保險期間ト稱ス其間ニ發生シタル事故ニ因リテノミ生スル損害ヲ填補スルモノナリ

契約ノ集合トハ同一ノ保險者カ數多ノ被保險者ヲ相手トシ同時ニ多クノ保險

契約ヲ締結スル場合ノミヲ想像スルノ謂ニシテ是レ保險ノ本質上自明ノ事トナリト雖モ先ツ保險契約ヲ定義スルニハ之ヲ表示スルコトヲ必要トス然ラザレハ保險契約ト他ノ委運契約又ハ恩惠契約ト混淆セラザルノ虞アリ例ヘハ甲カ報酬ヲ拂ヒ乙カ其被ルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ約シ且此契約ハ唯其兩人間ニノミ存在スル場合ノ如キハ全ク損害ヲ細分スト云フ保險ノ本質ヲ缺キ乙カ單ニ報酬ヲ得ンカ爲メニ危險ヲ冒シテ賭事ヲ試ミタル一種ノ射伴契約ニ外ナラス或ハ又乙カ甲ノ利益ノ爲メニ殆ト恩惠的ニ其損害ヲ賠償セントスル一種ノ好意ノ約束ニ過キスト想像スルヲ得ヘシ故ニ保險契約ノ定義ニハ此事ヲ一言スルノ必要アリ

勿論エーレンベルヒ氏ハ保險契約ト云ヘハ必ず保險業者カ當事者ノ一方ト爲リテ契約ヲ締結スルモノト解釋シタルカ故ニ保險業者ト云ヘハ勿論多數ノ被保險者ト契約スルモノナルカ故ニ民事事故之ヲ舉クルノ必要ナシト思ヘルナルヘシト雖モ我商法ニ於テハ保險ハ商行爲中ニ在ルモ商行爲ハ商人ノ行フ行爲ト廣ク解セラザル場合アリ而シテ其商人カ保險業者ニ非ザル當事者ノ一方ト

爲リテ契約ヲ締結スルコトヲ想像スルコトヲ得ルカ故ニ予ハ次ニ保險契約ノ定義ヲ左ノ如クニ掲ケント欲ス

保險契約トハ當事者ノ一方カ報酬ヲ受クル代リニ他ノ一方ニ不確定ニシテ且經濟的損害ヲ惹起スルノ事故ノ一定期間内ニ於ケル發生ニ際シテ財產ヲ供出センコトヲ約スル所ノ獨立ノ合意ニシテ此契約ハ前者カ後者ノ多數ニ對シテ約諾シ若クハ約諾スヘキ所ノモノナリ

第二節 保險契約ノ性質

保險契約ノ性質トハ保險契約カ法律學上ニ於テ有スル所ノ性質ヲ謂フ

(一) 保險契約ハ偶成契約ナリ(又委運契約ト謂フ) 契約ハ締結ニ始マリ履行ニ終ル而シテ保險契約ノ主ナル履行タル保險金ノ支拂ハ偶然ノ事ニ屬シ時期ニ付テハ不定ニシテ實行ニ付テハ不測ナリ故ニ之ヲ稱シテ偶成契約ト謂フ而シテ之ヲ射伴契約ナリトスルコトニ付テハ少シク説明ヲ要ス射伴契約トハ利益ヲ博取スルノ契約ニシテ一方ニ利益アレハ一方ニ損失ヲ起スモノナリ保險契

約ニ付テ之ヲ觀ルニ被保險者ハ毫モ利益ヲ得ルニ非ス唯損害ヲ免ルルニ過キ
 ス又保險者モ保險金ヲ支拂ヒタリトテ毫モ損害ト爲ラス保險者カ損失ニ對シ
 テ保險金ヲ支拂フハ至當ノコトナリ唯各箇ノ保險契約ニシテ著目シテ言ヘハ
 保險金支拂ヲ以テ損失ノ如ク考ヘラレド雖モ此ノ如キ場合ハ實際ニ於テ存
 在セザルカ故ニ何レノ點ヨリ觀ルモ保險契約ハ射伴契約ニ非サルナリ保險契
 約カ賭事博奕ノ如キ射伴契約ト異ナルハ此點ニ在リトス

(二) 保險契約ハ善意契約ナリ 當事者ノ雙方カ善意ヲ以テ爲シタル契約ニ非
 ナレハ無効ナルノ謂ニシテ例ヘハ保險契約ノ取結ニ際シ危險存在セスシテ保
 險者カ此事實ヲ知レルカ如キ場合ハ無効ニシテ被保險者ハ保險料支拂ノ義務
 ナキカ如キハ保險者ノ善意ヲ要スル場合ナリ然レトモ違ハ必スシモ保險契約
 ニ限ルト言フニ非ス例ヘハ醫師アリ或患者ノ診察ヲ引受ケ同時ニ一定ノ診察
 料ヲ受クヘキ約ヲ爲セシモ該患者カ既ニ死亡シタルコトヲ知レル場合ノ如キ
 ハ之ヲ請求スルコトヲ得サルカ如シ又被保險者ノ方面ニ付テ言ヘハ危險ニ關
 スル總テノ陳述ニ虛偽ナキヲ必要トスルハ其善意ヲ要スル一例ナリ

(三) 保險契約ハ賠償契約ナリ 保險契約ハ損害ノ賠償ヲ主眼トス故ニ損害ナ
 キ所ニ保險契約ナシ例ヘハ右ノ火災保險或ハ水害保險ト云フカ如シ保險契約
 カ賠償契約ナルコトハ古來異論ナク認メラレタレトモ近來ニ至リ保險契約ノ
 或種類ハ賠償契約ニ非スシテ單純ナル支拂ノ契約トセラレルコトアリ予ハ其
 眞意ヲ解セスト雖モ惟フニ保險契約ニハ損害ヲ賠償スルニ非サル種類ノ契約
 アリ例ヘハ生命保險ノ如キ人ノ死亡ハ損害ニ非ス又疾病保險ニ於ケル疾病ハ
 損害ニ非ス此等ニ對シテ保險金額ヲ支拂フハ損害ノ賠償ニ非スシテ或條件ニ
 際會シテ或金額ヲ支拂フ約束ナリト謂フカ如シ

此說ハ獨逸ニ大ニ行ハレ近頃米國ノ法曹社會ニ傳播セリ我國ニ於テモ之ヲ採
 用スルノ傾向アリ若シ此ノ如キ說ヲ認ムレハ前節ニ述ベタル保險契約ノ定義
 ハ一般ニ應用セラレサルモノニシテ條件附ノ支拂說ニ對シテハ保險契約ヨリ
 異議ヲ唱ヘサルヘカラス生命保險ニ於ケル死亡疾病保險ニ於ケル罹病等ハ明
 カニ損害ノ原因ト爲リ得ルモノニシテ又明カニ金錢ニ見積リ得ヘシ例ヘハ他
 人ノ過失ニ因リテ身體ノ一部ヲ損傷セラレタルトキ此人ハ損害ノ賠償ヲ請求

シ得ルニ非スヤ死亡ニ於ケルモ亦然リ何カ故ニ損害ノ賠償ヲ認メテ生命又ハ疾病保險ニ於ケル損害賠償ヲ認メサルヤ若シ又實損ヲ認メ難シト言フ説アラシカ雖令假損ト雖モ金錢ト換ヘ得ヘキモノナレハ損害賠償ノ契約ナリト謂フヘキナリト信ス

(四) 保險契約ハ雙務契約ナリテ保險契約ハ當事者ノ雙方ニ或義務ヲ發生セシメ一方ノ義務ハ他ノ權利タリ他ノ權利ハ一方ノ義務タリ即チ甲ハ保險金支拂ノ義務ヲ負ヒ乙ハ保險料支拂ノ義務ヲ負フ而シテ一方カ義務ヲ盡サナルトキハ他方モ亦義務ヲ盡スヲ要セス故ニ雙務契約ナリ

(五) 保險契約ハ有償契約ナリ 保險契約ノ價值ハ保險者カ損害填補ノ責ニ任シ損害ノ發生ニ方リテ保險金ヲ支拂フノ保險力ニ在リ而シテ之ニ對シテ保險料ト稱スル報酬ヲ受クルモノニシテ此點ニ於テ有償契約ノ一種類ナリ

(六) 保險契約ハ條件附契約ナリ 保險契約カ條件ヲ以テ締結セラレ且履行セラルルノ點ヨリシテ條件附契約ト稱セラレ例ヘハ契約ヲ締結スル前ニ被保險者ニ於テ陳示ノ義務アリ即チ契約ニ必要ナル事故ヲ陳述セサルヘカラズ而シ

テ契約ハ此事故ヲ眞實トシテ締結セラルルカ故ニ此事故ハ條件ト謂フコトヲ得ヘシ又保險契約成立ニ先テテ保險料ノ決定ニ錯誤カキコトヲ條件トシ又保險金支拂ノ場合ヲ限リ又ハ一定ノ危險ノ發生ニ非ナレハ賠償ヲ爲サス例ヘハ共同海損ニ對シテ賠償ノ特約ヲ結ハサル條件ヲ設クルカ如キ又或一定ノ場所ニ於ケル損害ニ對シテノ賠償ヲ爲スコトヲ約定シ得ルカ如キ條件附契約ト謂フ所以ナリ

(七) 保險契約ハ對人契約ナリ 保險契約ハ其種類如何ヲ問ハス物ニ對スル契約ニ非スシテ人ニ對シテ成立スルモノナリ其意味ハ保險セラレタル物件若クハ人身ヲ修補スルヲ必要トスルニ非スシテ契約者ニ對シテ金錢上ノ義務ヲ果セハ足レリト云フニ在リ即チ火災保險ニ於テ受取リタル保險金ヲ燒失シタル家屋ノ新築費ニ充テスシテ遊蕩ニ費シ又ハ他ノ方法ニ使用スルモ保險契約ノ效果ニ影響セズ又生命保險ニ於テ保險契約ヲ對人契約ニ非ストモハ身體其ノノヲ創造セサルヘカラサルノ不運ヲ來スヘシ

(八) 保險契約ハ隨意契約ナリ 保險契約ノ包容ハ當事者隨意ニ之ヲ決定スル

(三) ト得但隨意ニ契約スル條件ハ公安ニ關スル法律ノ規定ニ違反スヘカラテ
 ルハ勿論ニシテ例ヘハ火災保險ニ於テ自火ヲ賠償セス機關ノ破裂ヲ賠償セス
 又ハ雷火若クハ地震ニ基テ火災ハ賠償セスト謂フカ如キ種種ノ條件ヲ當事者
 間ニ於テ隨意ニ決定スルコトハ毫モ差支ナシト雖モ生命保險ノ保險金受取人
 ヲ親族以外ニ定ムルカ如キ契約ハ商法ノ規定ニ反スルカ故ニ此ノ如キ契約
 ハ無効トセサルヘカラス

(九) 保險契約ハ諾成契約ナリ。保險契約ハ當事者ノ合意アルト同時ニ成立ス
 ルモノニシテ通常習慣トシテ行ハルル所ノ第一回保險料拂込ノ事實ハ敢テ契
 約成立ノ條件ニ非ス

(三) 保險契約ハ口頭契約ナリ。書面ヲ以テ其契約ノ事由ヲ記載スルヲ要セス
 況ヤ一定ノ形式ナシ是レ口頭契約ナル所以ナリ然レトモ契約ノ締結セラレタ
 ル證據ハ必要ニシテ或ハ保險料領收證ヲ以テ立證シ或ハ帳簿ヲ以テシ或ハ仲
 立人ノ受取證ヲ以テ證スルコトアリ通常保險者ノ發行スル所ノ保險證券ハ契
 約ノ條件ニ非ス

第三節 保險契約ノ要素

保險契約ノ要素ハ第一被保險利益第二保險料第三危險第四期間是ナリ以下順
 次之ヲ説明セン

第一 被保險利益

保險契約ノ目的ハ被保險者ノ有スル財産上ノ利益ヲ保護スルニ在リ此利益ヲ
 被保險利益ト稱ス即チ吾人カ其所有スル家屋ニ付テハ財産上ノ利益ヲ有スル
 コト勿論ニシテ総合所有セスト雖モ占有スル場合又ハ借受ケタル場合モ亦其
 關係ノ程度ニ應シテ利益ノ關係ヲ有スルモノト謂フヲ得ヘタ或ハ他人ヨリ寄
 託ヲ受ケタル物件ニ付テハ綜合之ニ就テ利益ヲ有セスト雖モ其物件カ自己ノ
 占有中ニ於テ毀損スレハ其損害ヲ負擔セサルヘカラサルカ故ニ受託物ニ付テ
 ハ明カニ利害關係ヲ有スト謂フヘシ此利害關係ヲ被保險利益ト稱シ之ヲ有ス
 ル者カ保險契約ヲ締結スルコトヲ得又人類ニ於テモ父子ノ身體ニ付キ財産
 上ノ利害關係ヲ有シ妻ハ夫ノ身體ニ付テ夫ハ妻ノ身體ニ付テ其親族相互ニ財

產上ノ利益ヲ有スルコトハ敢テ深淵ナル理由ヲ以テ説明セサルモ明白ニシテ
 民法ニ於テ親族相互ニ養料ヲ給スル義務ヲ規定スル點ヨリ觀ルモ互ニ金錢上
 ノ利益ヲ有スルコトヲ推知スルヲ得ヘシ
 被保險利益ニ付テハ歐米各國ノ法律ニ於テハ精密ナル規定アリ英國ノ賭博條
 例ニハ一一其例ヲ舉ケテ嚴重ニ被保險利益ヲ定メタリ例ハ受託者宿屋待合
 等ノ主人カ其客ノ物品ニ付キ被保險利益ヲ有ストシ又妻ハ夫ノ身體ニ付テ被
 保險利益ヲ有スレトモ夫ハ妻ノ身體ニ付テ之ヲ有セス子ハ親ノ生命ニ付テ被
 保險利益ヲ有スレトモ親ハ幼者ノ生命ニ付テ之ヲ有セス又継令之ヲ有スルモ
 年齡ニ依リテ差異ヲ設ケタルカ如キハ其例ナリ又獨逸ニ於テ最モ盛ニ行ハル
 ル所ノ「ハフトブリヒトフェルシヘルンク」ナルモノハ工業條例ニ依リ工業者ハ其
 職工等カ職業上ノ危險ニ因リ負傷又ハ死亡シタルトキハ之ニ對シテ賠償金ヲ
 支拂フ責任アリ此責任ヲ保險ニ付スルヲ得ルモノニシテ雇主カ被雇者ノ身體
 上ニ有スル利益ヲ保險スルヲ得ルモノト解釋スルヲ得ヘシ
 我商法ニ於テハ第三百八十五條ニ保險契約ハ金錢ニ見贖ルコトヲ得ヘキ利益

ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ト謂ヘル單純ナル規定ヲ設ケルノ外一
 モ之ニ付テ定ムル所ナシ故ニ實際ノ場合ニ臨ミテ疑義ヲ生スルコト尠カラズ
 況ヤ此規定ハ損害保險ノ規定ニシテ生命保險ニ於テ見ルコトヲ得サルカ故ニ
 生命保險ニ於テハ被保險利益ノ有無ヲ論セスト解釋スルコトヲ得ヘシ是レ我
 商法ニ於テ特ニ注意スヘキ點ナリトス
 保險契約ハ被保險利益ヲ保護シ其損傷ヲ填補同復スルノ外ニ出ツルコト
 能ハサルモノナルカ故ニ保險者ハ被保險利益ノ價額以外ニ保險金額ヲ契約シ
 賠償ヲ爲スコトヲ得ス商法第三百八十六條ニ保險金額及保險契約ノ目的ノ價
 額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス下アリ
 是レ即チ被保險利益以外ノ保險契約ヲ認メサル規定ニシテ元來此ノ如キ契約
 ハ公安ニ反スル點ヨリ全然無効ト爲スヲ當然トスト雖モ便宜上超過ノ部分ニ
 付テノミ無効ト看做シテ有益無害ノ方法ヲ許セルナリ此ノ如ク保險金額及保
 險價額ニ超過シタル場合ヲ超過保險ト稱ス
 同一ノ目的ニ付キ數箇ノ保險契約成立シ即チ一ノ被保險利益ニ付テ數多ノ保

險者アル場合アリ之ヲ重複保險ト稱ス重複保險ニ付テハ左ニ掲タル數則ニ從
 フヘシニ
 (一) 重複保險ノ爲メニ總保險金額カ保險價額ニ超過シタル場合ハ超過ノ部分
 ハ無効ナルコト勿論ナリ
 (二) 重複保險カ同時ニ成立シタル場合ニハ各保險者ノ賠償スヘキ金額ハ各自
 ノ保險金額ト總保險金トノ割合ヲ計算シテ損害額ヲ分擔スルモノトス但同日
 ニ締結シタル契約ハ同時ニ爲シタルモノト看做ス(第三八七條)
 (三) 重複保險カ時ヲ異ニシテ締結セラレタル場合ハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負
 擔シ以テ其損害額ヲ充タシタル場合ニハ後ノ保險者ハ賠償ノ責ヲ免ルルモノ
 ニシテ此場合ニハ後ノ保險者ハ單ニ前ノ保險者ノ豫備タル狀況ヲ呈ス又前ノ
 保險者ノ賠償スル所損害額ニ充タサル場合ハ後ノ保險者其不足分ヲ負擔ス(第
 三八八條)
 我商法ニ於テ此ノ如ク重複保險カ同時ニ結ハレタル場合ト時ヲ異ニシテ結ハ
 レタル場合トヲ區別シテ規定シ保險者ノ責任ノ差異ヲ設ケタルハ理論上適當

ナルカ如シト雖モ實際頗ル不通ノ規定ナリ何トナレハ我商法ノ規定ニ依レハ
 契約ノ順序ニ依リテ保險者ノ責任カ異ナル丈ク之ニ對スル保險料異ナラザル
 ヘカラス然レトモ此ノ如キハ實際不便尠カラザルカ故ニ順序ニ拘ハラズ總テ
 ノ保險者カ同一程度ノ義務ヲ負フコトスルヲ優レリトス英米ノ如キハ此主
 義ニシテ我商法ハ之ニ從ヒシカ新商法ハ之ヲ修正セリ是レ獨佛ノ規定ニ倣
 ヒタルモノニシテ其修正ノ理由ハ時ヲ異ニシタル場合ト同一ノ場合トヲ同シ
 クスルハ不當ナリトノ理論ト又後ノ保險者ノ贊同ノ爲メニ前ノ保險者ノ義務
 カ減少スルコトハ不當ナリト云フニ在ルカ如シ然レトモ被保險者カ同一ノ利
 益ニ付テ他ノ保險者ヲ迎ヘタル以上ハ前ノ保險者カ多少ノ義務ヲ免ルルコト
 ハ他ニ於テモアリ得ヘキコトニシテ必スモ怪シムニ足ラス我國ノ保險業者
 ハ新商法ノ主義ニ贊成セズ皆舊商法ノ分擔主義ニ從ヒ其約款ヲ設ケ居レリ左
 レハ此法文ハ我國ニ於テハ死法タリ
 重複保險ヲ利用シテ被保險者カ賭博的行爲ヲ行ハントスルヲ防タ爲メニハ重
 複保險ノ事實ヲ保險者ニ一通知セシムル義務ヲ被保險者ニ強制スルノ必要

アリ然ルニ我商法ニ於テハ其規定ヲ缺ケテ勿論重複保險ニ於テ保險金カ保險價額ニ超過シタル場合ハ超過保險ノ原則ニ依リ超過分ハ無効ナルコト商法ノ規定ニ依ルモ明カナルモ超過ノ事實ヲ明カニスルニハ被保險者ニ通知ノ義務ヲ負ハシメテ各保險者之ヲ發見スルヲ得タルヲ以テ當然トモナルベカラス故ニ實際ニ於テハ保險者カ契約ノ約款ニ於テ重複保險タルコトノ實ヲ告ケタル契約ハ無効ナリト規定シ之ニ依リテ契約ヲ締結シ即チ既ニ一ノ保險者ト契約ヲ締結シタル後他ノ契約者ト保險セント欲スルトキハ先ツ第一ノ保險者ニ第二契約ノ金額ト保險者ヲ通知シ保險證券ニ之ヲ認ムルノ裏書ヲ爲サシメ又第二保險者ニ對シテハ契約申込書ニ第一保險ノ事實ヲ告白スルヲ要スルヲ以テ普通ノ習慣トセリ商法ノ起草者ハ我主義即チ獨立ノ負擔主義ナレハ此義務ヲ規定スル必要ナシト思ハレタルカ如シト雖モ各保險者ハ重複保險ノ事實ヲ知ラサル場合ニハ彼等ハ皆獨立シテ全負擔ヲ爲スカ如キ場合發生セスト謂フヘカラス縱令超過保險ハ無効ナリト云フ法文アリト雖モ之カ制裁ヲ加フルノ餘地ナキヲ奈何セシ故ニ孰レノ主義ニスルモ通知ニ關スル規定ニ必要ナリ

ルニ拘ハラス訴ノ申立ノ唯一ナルトキハ訴ハ常ニ一箇ナリ故ニ訴ノ申立ノ一箇ナル主參加ノ場合ニ於テハ被告カ數人アルニ拘ハラス一箇ノ訴訟ノ存在スルモノト謂ハサルヘカラス民事訴訟法ニ於テハ第三者カ訴訟ノ目的タル物又ハ權利ヲ自己ノ爲メニ請求スル第三者ハ當事者雙方ニ對スル訴ヲ提起スルコトヲ得ト規定セリ即チ次ノ二箇ノ場合ニ於テ之ヲ見ルモノナリ

第一 第三者カ訴訟ノ目的物タル權利ヲ自己ノ爲メニ主張スルトキ 本訴訟ノ原告カ或權利ヲ有スルコトヲ主張シ被告ニ對シテ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ主參加ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ其權利カ物權タルト債權タルト又ハ親權戶主權若クハ相續權タルトヲ問ハサルナリ然レトモ本訴訟ノ原告カ或權利ノ不存在ヲ主張スル場合ニ於テハ其權利ヲ自己ノ爲メニ主張スル第三者ハ主參加ノ訴ヲ提起スルコト能ハス又第三者カ本訴訟ノ目的物タル請求又ハ法律關係ノ不存在ヲ主張スル場合ニ於テハ主參加ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ此等ノ場合ニ於テハ本訴訟ノ當事者雙方ト第三者トハ利害ヲ異ニセザルカ故ナリ

第二 第三者カ本訴訟ノ原告ノ請求セル物ヲ自己ノ爲メニ請求スルトキ 本訴訟ノ原告カ被告ニ對シテ物ノ引渡ヲ請求スル場合ニ於テ更ニ第三者カ其物ノ引渡ヲ請求スル場合ニ於テハ主參加ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ而シテ本訴訟ノ原告ノ請求ト第三者ノ請求トハ必スシモ同一ノ權利ニ基クコトヲ必要トセス然レトモ主參加人ハ原告ニ對シテモ效力ヲ有スル權利ニ基キテ其請求ヲ爲ササルヘカラサルナリ故ニ原告カ土地ノ所有者トシテ其引渡ヲ請求スル場合ニ於テハ主參加人ハ之ニ對シテ有效ナル地上權ノ如キモノニ基キテ土地ノ引渡ヲ請求セサルヘカラス

主參加ノ訴ハ本訴訟ノ當事者雙方ヲ相手方トシテ之ヲ提起スヘキモノナリ又主參加ノ訴ハ本訴訟カ第一審ニ繼續シタル裁判所ニ之ヲ起スヘキモノトス而シテ其裁判所カ本來管轄權ヲ有セサルトキモ亦同シ加之主參加ノ訴ハ本訴訟ノ第一審裁判所ニ專屬スルモノナリ

主參加ノ訴ニ付テハ本訴訟ノ原告及ヒ被告ニ對スル辯論及ヒ裁判ヲ分離スルコト能ハサルモノナリ何トナレハ主參加ノ訴ハ本訴訟ノ原告及ヒ被告ニ對ス

ル一箇ノ訴ニシテ其原告及ヒ被告ニ對シ唯一ノ判決ヲ爲スヘキモノナレハナリ同一ノ理由ニ依リ原告及ヒ被告ニ對シテ區區ノ判決ヲ爲スコト能ハス故ニ主參加人ハ其主張カ本訴訟ノ當事者ノ一方ニ對シテ不當ナル場合ニ於テハ縱令他ノ一方ニ對シテ其主張ノ正當ナル場合ト雖モ自己ニ利益ナル判決ヲ受クルコトヲ得サルモノナリ之ヲ要スルニ主參加人ハ本訴訟ノ原告又ハ被告ニ對シテ敗訴スヘキ場合ニ於テハ本訴訟ノ原告及ヒ被告ニ對シテ敗訴セサルヘカラサルノ結果ヲ生ス

主參加ノ訴ニ付テノ判決ハ本訴訟ノ當事者雙方ノ間ニ於テモ其效力ヲ有スルモノナリ何トナレハ此判決ハ主參加人及ヒ本訴訟ノ當事者ノ間ニ於ケル判決ナレハナリ故ニ本訴訟ノ被告ハ之ヲ以テ本訴訟ノ原告ニ對抗スルコトヲ得ルモノナリ隨テ本訴訟ノ被告ハ主參加人カ勝訴ノ結果ヲ得タル場合ニ於テハ主參加ニ付テノ判決ヲ提出シテ本訴訟ノ原告ノ訴ノ却下ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリ果シテ然ラハ主參加ニ付テノ判決ト本訴訟ニ付テノ判決ハ互ニ抵觸スル結果ヲ生セス是レ實ニ主參加ノ制度ノ目的トスル所ナリ

以上述ヘタルカ如ク主參加ニ付テノ判決ハ本訴訟ノ當事者ノ間ニ於テモ效力ヲ有シ本訴訟ノ當事者ハ之ヲ提出シテ本訴訟ヲ完結スルコトヲ得ルヲ以テ主參加ノ訴ノ起リタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ主參加ニ付テノ判決ノ確定スルマテ本訴訟ノ中止ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ

本訴訟ノ原告及ヒ被告カ共謀シテ債權者ヲ害セントスル場合ニ於テ債權者ハ其利益ヲ保護スルカ爲メ亦主參加ノ訴ヲ起スコトヲ得ルモノナリ即チ本訴訟ノ原告及ヒ被告カ共謀シテ其債權者ヲ詐害センカ爲メ或請求若クハ法律關係ノ存在若クハ不存在ノ確定ヲ求ムル判決ヲ得ントスルニ當リテ債權者カ之ヲ妨クルカ爲メ反對ノ判決ヲ得ントスル場合ニ於テモ亦主參加ノ訴ヲ起スコトヲ得ルモノナリ例ヘハ本訴訟ノ原告カ被告ニ對シテ債權ノ存在ヲ主張シ其在在ヲ言渡ス判決ヲ得テ強制執行ヲ爲シ以テ債權者ヲ詐害セントスルニ當リ第三者タル債權者カ其不存在ヲ言渡ス判決ニシテ本訴訟ノ當事者雙方ニ對シテ有效ナルモノヲ得テ本訴訟ノ當事者ノ目的ヲ妨クルカ如キ場合はナリ

第十五章 從參加

凡ソ訴訟手續カ迅速且秩序ニ進行スルコトヲ圖ラントセハ第三者カ訴訟ノ開始後ニ至リ共同訴訟人トシテ其訴訟ニ加ハルコトヲ許スヘキモノニ非ス是レ會テ述ヘタル所ニ依リテ自ラ明カナリ然レトモ訴訟ノ目的物タル法律關係ニ付キ利害關係ヲ有スル第三者ヲシテ訴訟ニ加ハリ以テ其利益ヲ保護スルコトヲ得セシムルノ必要アリ第三者カ他人ノ間ニ於ケル訴訟ノ目的物タル法律關係其モノニ付テハ利害關係ヲ有セサルモ其訴訟ノ結果ニ由リテ影響ヲ受クヘキ他ノ法律關係ニ付キ利害ヲ有スル場合ニ於テモ亦同一ナリ若シ此等ノ必要ニ應セントセハ第三者ニ與フルニ當事者タル地位ヲ以テスルコトナク唯當事者ノ一方ヲ補助スヘキ地位ヲ與フルヲ以テ其當ヲ得タルモノトス是レ即チ從參加ノ制度ノ由リテ起リタル所以ナリ

從參加ハ右ニ述ヘタル目的ヲ達スル外尙ホ數多ノ訴訟ノ生スルコトヲ妨ケ且其結果ノ互ニ抵觸スルコトヲ妨クルノ目的ヲ達スルコトヲ得ルモノナリ

從參加トハ原告又ハ被告ノ一方ヲ補助シ其勝訴ニ因リテ自己ノ利益ヲ全ウセ
 ントスル第三者カ其一方ヲ補助スルカ爲メ訴訟ノ進行中之ニ加ハルモノヲ謂
 フ

右ニ述ヘタル所ニ依レハ從參加人ハ訴訟ノ當事者ナラサルコトヲ知ルヘシ然
 レトモ從參加人ハ訴訟當事者ノ代理人ニ非ス常ニ自己ノ名ニ於テ訴訟行爲ヲ
 爲スモノナリ唯從參加人ノ行爲ハ後ニ説明スルカ如ク或制限内ニ於テ當事者
 ニ對シ其效力ヲ及ホスモノナリ

從參加人カ他人ノ間ノ訴訟ニ加ハルニハ訴訟ノ結果ニ付キ法律上ノ利害關係
 ヲ有セサルヘカラス所謂法律上ノ利害關係トハ自己ノ法律上ノ地位ニ利害ヲ
 及ホスヘキ關係ヲ謂フナリ

從參加人カ訴訟ニ參加スルニハ當事者一方ノ勝敗ニ付キ利害關係ヲ有セサル
 ヘカラサルモノニシテ法律ハ左ノ場合ニ於テ從參加ヲ許スニ足ルヘキ利害關
 係ノ存在スルモノト認メタリ

第一 第三者カ補助セントスル當事者ノ相手方ニ利益ナル判決カ直接ニ第三

者ノ法律上ノ地位ニ影響ヲ及ホス場合ニシテ今之ヲ分テテ次ノ二トス

(イ) 當事者間ノ判決ノ確定力カ第三者ニ直接ニ利害ノ影響ヲ及ホストキ。例
 ヘハ要役地ノ爲メニ地役權ノ存在スルコトヲ認ムル判決カ要役地ノ共有者ニ
 利害關係ヲ及ホスカ如シ

(ロ) 第三者カ當事者間ノ判決ノ執行力ニ因リテ直接ニ利益ヲ被ルトキ。即
 チ其判決ノ執行ニ因リテ直接ニ第三者ニ利益ナル状態ヲ惹起ス場合例ヘハ
 被告カ物ノ占有者トシテ訴ヘラレタル場合ニ於テ占有ノ移轉ニ因リテ利益
 ヲ被ル者カ從參加人ト爲ルカ如キナリ

第二 從參加人ノ補助セントセル當事者ノ相手方ニ利益ナル判決カ間接ニ第
 三者ノ法律上ノ地位ニ利益ナル結果ヲ及ホスヘキ場合。即チ其判決カ第三
 者ヲシテ利益ヲ被ラシムヘキ原因ト爲ル場合ニシテ之ヲ分テテ左ノ二トス

(イ) 當事者間ニ於ケル判決カ或法律關係ニ關シテ第三者ニ效力ヲ及ホシ其法
 律行爲ノ結果トシテ更ニ第三者ノ法律關係ニ利益ヲ及ホストキ。例ヘハ婚
 姻ノ有效ナル場合ニ於テ相續權ヲ有スヘキ者カ婚姻無效ノ判決ニ因リテ不利

益ヲ被ル場合ノ如キ是ナリ
 (ロ) 第三者カ當事者間ノ判決ノ執行ニ因リテ間接ニ不利益ヲ被ルトキハ即チ
 第三者ノ補助セントスル當事者カ判決ノ執行ヲ受ケタルトキハ第三者ノ責任ヲ
 生スルニ至ルトキ例ヘハ買主カ追奪ヲ受ケタル場合ニ於テ賣主カ損害賠償ヲ
 受ケルカ爲メ買主ニ對スル追奪ノ訴ニ參加シテ買主ヲ補助シ又連帶債務者ノ
 一人カ辨濟ヲ爲ストキハ他ノ連帶債務者ハ償還ヲ爲ササルヘカラサルカ爲メ
 一人ノ連帶債務者カ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其連帶債務者カ其訴訟ニ參加ス
 ルカ如キ是ナリ

以上述ヘタルカ如ク他人ノ訴訟ニ付テ利害關係ヲ有スル者ハ訴訟カ如何ナル
 程度ニ在ルヲ問ハス本訴訟ノ緊屬スル裁判所ニ從參加ノ申請ヲ爲スコトヲ得
 ルモノナリ此申請ニハ當事者及ヒ訴訟ヲ表示シ又從參加ノ理由タル法律上ノ
 利害關係及ヒ本訴訟ニ附隨シテ訴訟ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケサルヘカラス
 右ノ申請ハ故障異議又ハ上訴ト併合シテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ即チ故
 障異議又ハ上訴ヲ爲スト同時ニ此申請ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ故ニ訴訟カ

モ尙ホ且裁判所ハ之ヲ知ラツテ濫ニ訊問ニ依リテ其職務上默秘スヘキ職務ヲ
 ル事情ヲ陳述セシムルコトヲ得ス其官吏公吏退職後ト雖モ亦同シ但默秘ノ事
 務ヲ免除セラレタルトキハ勿論此限ニ在ラス故ニ裁判所ニ於テ斯ル秘密ノ事
 項ニ付キ官吏公吏ヲ訊問スルノ必要アルトキハ其官吏公吏ノ所屬廳又其退職
 後ハ最後ノ所屬廳ノ許可ヲ得セシメテ後之ヲ訊問スルコトヲ要ス又右ノ事項
 ニ關シ大臣ヲ訊問スルニ付テハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス而シテ右證言ノ許可ハ
 直接ニ裁判所ヨリ當該官廳ニ求メ其許可アリタルトキハ之ヲ證人ニ通知スヘ
 キモノナリ其許可ノ要求ヲ受ケタル官廳ハ證人カ證言ヲ爲スニ因リテ國家ノ
 安寧ヲ害スル恐アルトキニ限り許可ヲ拒ムコトヲ得其果シテ國家ノ安寧ヲ害
 スルノ恐アルヤ否ヤハ固ヨリ當該官廳ニ於テ判斷スヘキ所ニシテ他ノ容隊ヲ
 許スヘキモノニ非ス裁判所ハ豫メ訊問事項ノ證人ノ默秘スヘキ職務アル事實
 ニ係ルコトヲ知リタルトキハ勿論其訊問前ニ許可ヲ求ムルノ照會ヲ爲スヘシ
 ト雖モ若シ豫メ之ヲ知ルコト能ハスシテ證人ノ訊問ヲ始メタル後其證言ヲ拒
 絶スルニ依リテ始メテ之ヲ知リタルトキハ其訊問ヲ中止シテ更ニ許可ヲ求ム

（キ）ナリ（第二九八條第一號、第二九〇條）
 （ロ）醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職、及ヒ僧侶、カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ、默秘スヘキモノニ關スルトキ、此等ノ者モ亦職業上他人ノ委託ヲ受ケテ其秘密ヲ知ルコトアリ、此默秘スヘキ事項ヲ證言スルコトハ人情ノ上ニ於テモ忍ヒ難ク又爲メ自己ノ信用ヲ毀損スルコトモアルヘク、尙ホ又此事項ヲ證言スルノ義務アルモノトセハ、秘密ヲ告ケサルヘカラサル者ハ其發露ヲ恐レ必要ノ委託ヲ爲サスシテ爲メニ不測ノ災害ヲ被ルニ至ルコトアルヘキカ故ニ公益ノ上ニ於テモ其證言ノ義務ヲ免除スルハ至當ナリ、但斯ル秘密ノ事項ト雖モ委託者本人ニ於テ之ヲ他言スルコトヲ承諾シタルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得サルハ勿論ナリ（第二九八條第二號）
 （ハ）問ニ付テハ答辯カ證人自身又ハ第二九十七條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ、法文ニ所謂前條即チ第二九十七條ニ掲ケタル者トハ不明ノ嫌アリトモ其規定ノ意思ヲ探究スレハ親族同居人、後見人、雇主ヲ指シタルモノナルコトハ前說明セル同條規定ノ精神ニ照シ

チ明カナリ（同條第三號）

（ニ）問ニ付テハ答辯カ證人自身又ハ第二九十七條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財產權上ノ損害ヲ生セシムヘキトキ（同條第四號）
 （ホ）證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニ非サレハ答辯スルコト能ハサルトキ、此事項モ亦一般ニ技術、職業ヲ保護スル上ニ於テ證言ヲ強ユルニ忍フヘカラサルモノナリ（同條第五號）
 以上證言ヲ免除セラレタルモノノ中第一ノ（イ）及ヒ第二ノ（ニ）ノ場合ニハ再例外アリ、即チ左ノ事項ニ付テハ證人ハ當事者ノ親族ナルモ又自己若クハ親族其他第二九十七條ニ掲ケタル者ニ財產權上ノ損害ヲ來スヘキトキニテモ尙ホ證言ノ義務ヲ免レサルモノナリ（第二九九條）
 （一）家族ノ出產、婚姻又ハ死亡、此等ノ事項ニ付テハ當事者ノ親族ト雖モ證言ヲ拒ムコトヲ許サレサルハ、即チ其一家内ノ者ニ非サレハ熱知セサル事項ニ屬シ、而シテ他ニ證人ナキカ爲メ訴訟ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リテ眞實ヲ得ルコト能ハサルノ憂アルヲ以テナリ

(二) 家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ關スル事實 例ハ養料ニ關スル事實夫婦財産制ニ關スル事實ノ類是ナリ是レ亦前同ノ理由ニ依リテ證言ヲ拒ムコトヲ許ササルナリ

(三) 證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル法律行為ノ成立及ヒ旨趣ノ例ハ公正證書ノ作成ニ證人トシテ立會ヒ又ハ強制執行ノ際第五百三十七條ノ場合ニ證人トシテ立會ヒタル者其他特ニ後日ノ證據ノ爲メ法律行為ニ立會ヲ爲シタル者ハ其行為ノ成立及ヒ旨趣ノ如何ニ付キ訊問ヲ受クルニ於テハ證言ヲ拒絕スルコトヲ得サルナリ

(四) 原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ保争ノ法律關係ニ關シ爲シタル行為 保争ノ法律關係ニ關シ當事者ノ前主又ハ代理人トシテ或行為ヲ爲シタル者ハ其承繼人又ハ被代理人タル當事者ニ對シ其事實ヲ明カニスルノ責任アリト謂ハサルヘカラス而シテ其責任アルノ結果自己ノ行為ニ關シ證言ヲ拒絕スルコト能ハサルニ至ルハ當然ナリ

以上述ヘタル證言拒絕ノ權利アル者カ證言ヲ拒ムニハ其證言拒絕ノ原因タル

事實ヲ開示シ且之ヲ説明セザルヘカラス而シテ其拒絕ハ訊問期日ニ至リテ爲スモ可ナリ又其期日前ニ爲スモ可ナリ但訊問期日前ニ於テスルトキハ拒絕原因ノ申出並ニ説明ハ或ハ口頭ヲ以テシ或ハ書面ヲ以テスルコトヲ得ルノミナラス其拒絕ノ適法ナルトキハ訊問期日ニ出頭スヘキ義務ヲ免ルヘキモ訊問期日ニ至リテ證言ヲ拒絕スル者ハ必ス出頭シテ其旨ノ陳述ヲ爲ササルヘカラス若シ然ラサルトキハ前述不出頭ノ制裁ヲ免ルルコト能ハス(第三〇〇條第一項、第二項)

證言ノ拒絕ハ當事者ニ利害ノ關係アルハ勿論其當否ニ付キ争ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ裁判所書記ハ拒絕ノ書面ヲ受取り又ハ拒絕ノ陳述ニ付キ圖書ヲ作りタルトキハ之ヲ當事者ニ通知セザルヘカラス(第三〇〇條第三項)而シテ此拒絕申立ノ後證人自ラ之ヲ取消シテ證言ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ證人カ其拒絕ヲ取消ササル場合ニ舉證者カ其人證ヲ拋棄シタルトキハ争ヲ生スルコトナシト雖モ若シ其人證ヲ申出ラタル當事者カ拒絕ノ通知ヲ受ケ拒絕ヲ正當ノ理由ナシトスルトキハ其當否ニ付キ争ヲ生ス此争ヲ裁決スルハ受訴裁判所ノ

權内ニ屬シ受命判事又ハ受託判事ハ其權能ナシ受訴裁判所カ此争ヲ裁判スルニハ當事者ヲ審訊シタル後決定ノ方式ヲ以テ爲スヘキモノナリ所謂當事者トハ舉證者ノミナラス相手方ヲモ包含ス蓋シ相手方ト雖モ亦利害ノ關係ヲ有シ且證言ノ自己ニ利ナルトキハ之ヲ援用スルコトヲ得レハナリ然レトモ若シ當事者雙方トモ出頭セス又ハ一方ノミ出頭シテ他ハ出頭セザルトキハ全ク當事者ノ陳述ヲ聽カス又ハ一方ノミノ陳述ヲ聽キテ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ此決定ニ對シテハ當事者又ハ證人ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得而シテ其即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有スルカ故ニ經令證言拒絶ノ理由ナシトスル決定アルモ之ニ對スル即時抗告アリタルトキハ其裁判ノ確定セザル間ハ證人ノ訊問ヲ爲スコトヲ得ス但證人ノ申出ヲタル證言拒絶ノ原因ヲ不當ナリトシテ棄却シタル決定カ確定シタル後ニ尙ホ證人カ證言ヲ拒ミタルトキハ前述セル第三百二條ノ制裁ヲ受タヘキモノナリ右ハ一般證人ノ證言拒絶ノ當否ニ付テノ裁判ニ關スル規定ナレトモ官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者カ其職務上職務スヘキ義務アリトシテ證言ヲ拒ミタル場合ハ裁判所ニ於テ直チニ其當否ヲ判定スルコト

ト能ハス何トナレハ其證言拒絶ノ當否ヲ判斷スルニハ訊問事項カ果シテ證人ノ職務上職務スヘキ義務アル事項ニ屬スルヤ否キヲ調査セザルヘカラス而シテ之ヲ知ル所ノ者ハ裁判所ニ非スシテ其所屬官廳ナルヘケレハナリ是故ニ右ノ場合ニ於ケル證言拒絶ノ當否ハ之ヲ證人ノ所屬廳又ハ其最後ノ所屬廳ノ裁定ニ一任スヘク裁判所ハ決シテ其裁定ニ反スル裁判ヲ爲スコト能ハス又當事者モ之ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ザルナリ第三〇一條

第二則 人證ノ申出及ヒ證人呼出ノ方式

當事者カ自己ノ主張スル係争事實ニ付キ證據方法トシテ人證ヲ申出ツルニハ證人ヲ指名シ且其訊問事項ヲ表示スルコトヲ要ス證人ノ指名トハ單ニ其人ノ姓名ヲ表示スルノミニ止マラス其住所身分職業等ヲ表示シ其何人タルヤヲ分明ナラシムルノ謂ナリ而シテ其申出ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(第二九一條)

當事者カ證人ヲ同伴シタル場合ノ如キ人證申出ノ際現ニ證人ノ出廷シ居ルト

キハ受訴裁判所ハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得レトモ然ラサルトキハ第二百七十四條第二項ノ規定ニ從ヒ證據決定ヲ爲シ新期日ヲ定メテ其期日ニ證人ヲ呼出ササルヘカラス即チ裁判長又ハ受命判事若クハ受託判事ハ證據決定ノ旨趣ニ從ヒ書記ニ命シ證人ニ對シテ呼出狀ヲ發セシメサルヘカラス而シテ其呼出狀ニ記載スヘキ事項ハ第二百九十二條ニ規定セリ其呼出狀ノ記載事項ハ何レモ呼出狀ニ缺クヘカラサルモノニシテ此方式ヲ缺キタル呼出狀ヲ發シタル場合ニハ縱令證人カ期日ニ出頭セザルトキト雖モ固ヨリ合式ニ呼出サレタルモノト謂フコトヲ得サルヲ以テ之ニ第二百九十四條ノ制裁ヲ加フルコトヲ得ス」證人ノ呼出ニ付テモ亦人ニ關スル例外アリ即チ現役ノ軍人軍屬ヲ證人トシテ呼出スニハ直接ニ裁判所ヨリ呼出狀ヲ發スルコトヲ得ス其軍人軍屬ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ呼出ササルヘカラス勿論證言ノ義務ハ一般人民ノ公ノ義務ニシテ何人ト雖モ故ナク其義務ニ違背スルコトヲ許スヘカラサルヲ以テ其囑託ヲ受ケタル長官又ハ隊長ハ軍務ニ差支ナキ限ハ證人トシテ呼出ヲ受ケタル軍人軍屬ノ缺勤ヲ許シ以テ其期日ニ裁判所ニ出頭シテ證言ノ義務ヲ履行セシメサルヘカラス若シ軍務上其者ノ缺勤ヲ許スコト能ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ通知シ更ニ他ノ期日ヲ定メンコトヲ請求スルノ義務アルモノトス(第二九三條)又若シ軍人軍屬カ證人トシテ呼出ヲ受ケ且其長官又ハ隊長ヨリ缺勤ヲ許サレタル場合ニ正當ノ理由ナクシテ裁判所ニ出頭セザルトキハ前ニ述ヘタル第二百九十四條ニ規定セル制裁ヲ受クヘキハ勿論ナリ

第三則 證人ノ訊問ニ關スル手續

凡ソ裁判所ニ於テ證人ノ訊問ヲ爲スニハ先ツ第一ニ其人違ナラサルコトヲ確メサルヘカラス若シ證人トシテ出頭シタル者カ當事者ノ申出以外ノ人ナルトキハ其訊問ハ全ク無益ナルヲ以テナリ而シテ其方法ハ證人ノ携帶シ來レル呼出狀ヲ提出セシムルカ又ハ必要ナル場合ニ於テハ氏名身分職業住所等ヲ訊問スルカ其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ確ムルコトヲ得ヘシ出頭シタル證人ノ人違ナラサルコトカ定マレルトキハ次ニ其訊問ヲ爲スヘキ判事ハ之ニ僞證ノ罰ヲ諭示シテ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラス此僞證ノ罰ヲ諭示スヘシトノ規定ハ證

人ヲシテ眞實ヲ述ヘシメ以テ偽證罪ニ陥ルコトナカラシメンカ爲メニ注意ヲ與フヘキ訓示の規定ニ過キス故ニ縱令此諭示ヲ爲サスシテ證人ヲ訊問スルモ爲メニ其證人訊問ハ無効ト爲ルヘキモノニ非ス又爲メニ其證人ノ偽證罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス之ニ反シテ證人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルハ法律カ證人ヲ訊問ニ必要ナル形式トシテ命シタルモノナレハ若シ宣誓ヲ爲サシムヘキ場合ニ之ヲ爲サシメスシテ證人ノ訊問ヲ爲シタルトキハ其證人ノ證言ハ裁判上證據トシテ採用スルコトヲ得ス且又之カ爲メニ偽證罪ノ成立要素ヲ缺クニ至ルモノナリ宣誓ハ數人ノ證人アリタルトキハ各別ニ爲サシムヘク又其訊問前ニ爲サシムルヲ正則トスレトモ證人カ果シテ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナルヤ否ヤニ付テ疑アルトキハ訊問ノ後其疑ノ消滅シタルトキニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得其他特別ノ事情アリテ訊問前ニ宣誓ヲ爲サシムヘカラサル場合ニ於テモ亦同シ(第三〇六條第三〇八條)證人ノ爲スヘキ訊問前及ヒ訊問後ニ於ケル宣誓ノ旨趣ハ第三百七條ニ掲ケタリ

證人カ證言ヲ爲スニ付テハ右ノ如ク宣誓ヲ必要トスルカ故ニ證言ノ義務アル者ハ必ス宣誓ノ義務アリ故ニ證言ノ義務アル者カ縱令證言ヲ拒マサルモ宣誓ヲ拒ミタルトキハ猶ホ證言ヲ拒ミタルト同一ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス(第三〇九條)然ラハ則チ宣誓ハ證言義務ニ附隨ノ義務ト謂フヘキナリ然レトモ證言及ヒ宣誓ノ義務ヲ併有スル者ハ唯狹義ノ意味ニ所謂證人ノミニシテ法律ハ別ニ或第三者ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メニ之ヲ訊問スルコトヲ許セリ即チ左ノ如シ(第三一〇條)

第一 十六歳未満ノ者 訊問ヲ受クルドキ未タ滿十六歳ニ達セサル者ハ精神上ノ發達不十分ニシテ其刑法上ノ責任ヲ生スルニ付テモ辨別心アリテ犯シタルヲ要シ且縱令是非ノ辨別心アリテ犯シタルトキト雖モ尙ホ宥恕減輕ノ特典ヲ受クル者ナレハ其宣誓ノ何物タルヲ解スルト否トヲ問ハス故ラニ之ニ宣誓ヲ爲サシメ且之カ爲メニ偽證罪ニ陥ルコトアラシムルノ必要ナシトシ唯其者カ係争事實ニ關シ實驗アルトキハ其眞否ノ判斷ニ資スル爲メ裁判官ヲシテ之ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルコトヲ得セシメタルモノナリ

第二 宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ヲ缺ク者 此者ニ付テハ全ク宣誓ヲ爲サシムルノ無用ナルハ言ヲ埃タサルモ其供述ニシテ時ニ或ハ係爭事實ノ判斷ノ資料タルコトアルヘキヲ以テ其訊問ハ常ニ無用ナリト謂フヲ得ス是レ此者モ亦宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルコトヲ得ル所以ナリ

第三 刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者 此者ハ刑事上ノ制裁ノ結果裁判所ニ於テ狹義ニ所謂證人ト爲ルコトヲ得ス即チ之ニ宣誓ヲ爲サシメテ訊問ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナレトモ是レ亦事實ノ真相ヲ知ルカ爲メニ訊問ノ必要アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルコトヲ得ルモノトス

第四 第二百九十七條ニ掲タル者即チ當事者ノ親族發後見人同居人雇人ニシテ證言ヲ拒マサル者及ヒ第二百九十八條第三號第四號ノ場合ニ於テ同シク證言拒絕ノ權利ヲ行使セサル者 此等ノ者ハ前ニ説明シタル立法上ノ理由ニ基キテ既ニ證言拒絕ノ權利ヲ付與セラレタル者ナレハ縱令其權利ヲ行使セサルトキト雖モ勢ヒ眞實ニ反スル供述ヲ爲スコトアルヲ免ルヘカラサルヲ以テ之

ニ宣誓ヲ爲サシメ爲メニ偽證罪ニ陥ルコトアラシムルノ不可ナルハ同前ノ理ナリ

第五 訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者 例ヘハ當事者ノ共同權利者、共同義務者ニシテ訴訟ニ加ハラサル者カ其訴訟事件ニ於テ證人ト爲リ或ハ又破産管財人ト他人間ノ訴訟ニ於テ破産者カ證人ト爲ル場合ノ如キ證人ノ權利義務カ訴訟事件ニ關係ヲ有シ訴訟ノ成績如何ニ依リ直接ニ證人ノ利害ニ影響ヲ及ホスヘキトキハ前同一ノ理由ニ依リ之ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ訊問スルコトヲ得ルニ過キス

宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メニ訊問シタル者ノ供述ノ信憑力如何ハ一ニ裁判官ノ心證ニ依リテ定マルモノナリ故ニ裁判官ハ其供述ヲ信用スヘキ價值アリト爲シタルトキハ之ニ依リテ係爭事實ヲ證明セラレタルモノト爲スコトヲ得ルハ毫モ宣誓ヲ爲シタル證人ノ證言ニ於ケルト異ナルコトナシ宣誓ノ有無ハ唯裁判官カ其供述ノ信憑力ヲ判斷スルニ付テ參酌スルニ過キス

茲ニ一ノ研究スヘキ問題ハ當事者ト右身分上ノ關係ヲ有スル者又ハ訴訟ニ直

接ノ利害關係ヲ有スル者カ證言ヲ拒絕セザルトキハ之ニ宣誓ヲ爲サシメテ訊問スルコトヲ得ルヤ否ヤ詳言スレハ第三百十條ニ此等ノ者ハ宣誓ヲ爲サシメテ訊問スルコトヲ得トアルハ必ス之ニ宣誓ヲ爲サシメタルヲ要ストノ意ニ非スシテ之ニ宣誓セシムルト否トハ裁判官ノ隨意ナリトノ旨趣ニ解スヘキヤ否ヤノコト是ナリ或論者ハ此等ノ者ニハ法律カ證言拒絕ノ權利ヲ與ヘタルニ過キスシテ別ニ之ニ宣誓ヲ命スルコトヲ禁止シタル明文ナキヲ以テ若シ此等ノ者カ證言拒絕ノ權利ヲ行使セスシテ證言ヲ爲サントスル以上ハ無論之ニ宣誓ヲ命スルモ差支ナク第三百十條ハ唯宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルモ亦可ナル旨ヲ規定シタルモノナリト主張スルモ予輩ハ其反對ノ解釋ヲ以テ可ナリト信ス何トナレハ第一ニ第三百十條ニ列舉スル第一號乃至第三號ノ者ハ反對ノ論者ト雖モ常ニ宣誓ヲ命スルヲ得サルモノタルニ異論ナカルヘシ然ルニ第四號第五號ノ者ヲ此等ノ者ト同列ニ置キ同一ノ規定ニ從ハシメタル以上ハ其間ニ差別ヲ立ツルハ解釋上固ヨリ不當ノコトナルノミナラス第二ニ此等ノ者ニ證言拒絕ノ權利ヲ與ヘタルハ素ト人情ノ上ニ於テ眞實ノ證言ヲ爲

シ難キ弱點アリテ偽證罪ヲ以テ之ヲ罰スルヲ酷ナリトシテ之ヲ避クルカ爲メナリ而シテ此等ノ者カ縱令證言ヲ拒絕セザルトキト雖モ未タ必スシモ眞實ヲ述フルモノト看做スコトヲ得ス果シテ然ラハ強テ之ニ宣誓ヲ爲サシムルニ於テハ其偽證罪ニ陥ルコトナカラシメント欲スル法律ノ意思ハ爲メニ貫徹セザルニ至ルヘケレハナリ尙ホ一言ヲ加ヘンニ獨逸民事訴訟法ノ規定ニハ右等ノ者ニハ訊問ヲ終リタル後ニ至リ裁判所ノ意見ニ依リテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ旨ノ明文アレトモ我民事訴訟法ニハ此ノ如キ規定ナキヲ以テ觀ルモ益々消極說ノ可ナルヲ知ルヘキナリ

以上述ヘタルハ證人訊問前ノ手續ナリ證人訊問ノ始マルハ其氏名年齢身分職業住所等ヲ問フニ在リ次ニ必要ナル場合ニ於テハ當事者トノ關係其他證言ノ信用ニ關スル狀況ニ付テ問ヲ發シ之ヲ明カニセザルヘカラス(第三一二條但證人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘキヤ否ヤヲ決スルニ必要ナル事項例ヘハ第二百九十條ノ身分上ノ關係ノ如キハ其訊問前ニ調査スルノ必要アリ何トナレハ此等ノ者ニハ裁判長ハ訊問前ニ證言拒絕ノ權利アルコトヲ告知セザルヘカラスレ

ハナリ此他所謂證言ノ信用ニ關スル狀況トハ右以外ノ身分上ノ關係又ハ其訴訟事件ニ如何ナル關係ヲ有スルヤノコト或ハ又其證人ノ精神上ノ狀態ノ如何等ヲ謂フ此等ノ訊問ヲ終リタル後始メテ係爭事實ノ訊問ニ移ルヲ以テ普通ノ順序トス而シテ證人訊問ヲ爲スノ方法ハ數人ノ證人アルトキハ後ニ訊問ヲ爲スヘキ者ノ居ラサル場所ニ於テ各別ニ訊問セサルヘカラス此手續ハ要スルニ事實ノ真相ヲ發見シ各證言ノ信用スヘキモノナルヤ否ヤヲ判斷スルニ必要ナルモノナリ然レトモ既ニ訊問ヲ終リタル者ハ後ノ證人ヲ訊問スル場所ニ居ラシムルモ差支ナシ是レ後者カ前者ノ證言ニ雷同シ又ハ強テ反對ノ證言ヲ爲スノ恐アラサルヲ以テナリ(第三一條第一項此ノ如クニシテ訊問事項ニ付テハ證人ヲシテ其知レル事項ヲ牽連シテ陳述セシムヘク一一問ヲ發シテ簡單ナル答ヲ爲サシムルハ不可ナリ唯證人ノ陳述不明瞭ナルトキ又ハ不完全ナルトキニハ之ヲ明確ナラシメ完全ナラシムル爲メ別ニ必要ナル問ヲ發スルコトヲ得ヘク又其證言ノ眞否ヲ確ムル爲メ證人カ事實ヲ知り得タル原因ノ如何ヲ穿鑿スル爲メニ必要ナル問ヲ發スルコトヲ得ヘキモノトス(第三一三條)

左ニ前述ノ檢證搜索物件差押ノ三處分ニ共通ノ規則ヲ摘示セン

- (一) 其日ニ處分ヲ爲シ了ラサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守人ヲ置クコトヲ得第一〇七條)
- (二) 被告人ハ自ら處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得但拘留中ハ立會フコトヲ得サルモ豫審判事ニ於テ其立會ヲ必要ナリト思料スルトキハ之ヲ立會ハシムヘキモノトス(第一〇八條)
- (三) 何人ニ限ラス其場所ニ許可ヲ得シテ出入スルコトヲ得ス若シ之ニ背ク者アルトキハ豫審判事ハ之ヲ逐斥シ又ハ留置スルノ權利ヲ有ス(第一一一條)
- (四) 豫審判事カ證人ノ供述ヲ聽クヲ必要ナリトスルトキハ之ヲ聽クコトヲ得(第一一〇條)
- (五) 管轄地内ト雖モ豫審判事ハ右處分ヲ區域判所判事ニ囑託スルコトヲ得(第一一二條)

第六節 證人訊問

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審 豫審 證人訊問

証人取調ニ關スル規定ヲ左ニ摘示セン

- (一) 証人ハ豫メ之ヲ呼出スコトヲ要ス即チ証人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ二十四時間ノ猶豫ヲ與ヘ之ヲ呼出ササルヘカラス其呼出狀ニハ証人ノ住所氏名職業出頭ノ日時場所出頭セサルトキハ罰金ヲ言渡スヘキコト並ニ勾引ヲ爲スヘキコト等ヲ記載スヘシ又被告事件ハ之ヲ記載スヘシトノ明文ナキモ實際ニ於テハ多ク之ヲ記載スルヲ常トス(第十一五條)
- (二) 証人出頭ノ上呼出狀ヲ呈出シタルトキハ豫審判事ハ其氏名年齢職業住所等ヲ訊問シ民事原告人又ハ被告人及ヒ民事原告人ト親屬過去現在ニ於ケル後見人雇人同居人等ノ關係ノ有無ヲ調査シ且十六歳未満知覺精神ノ不十分ナル者癡啞者重禁錮以上ノ事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者又ハ同事件ニ付キ證據不十分ナルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ナラサルヤ否ヤヲ調査シタル上宣誓ヲ爲サシメ訊問ニ取掛ルヘシ(第一二〇條乃至第一二二條)
- 豫審判事ノ訊問ニ對シ証人ヲ爲シタル供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ即チ訊問調書ヲ作成シ証人ニ讀聞カシム若シ証人方變更増減ヲ申立ヲ爲ストキハ書記

ハ其事ヲ調書ニ記載スヘシ(第一三一條第二項)

調書ニハ判事書記証人署名捺印ス若シ証人カ署名捺印スルコト能ハザルトキハ書記ハ其旨ヲ調書ニ附記スヘシ(第一三二條第三項)

必要ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ証人ヲ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得ヘシ(第一二八條)

(三) 証人ハ他ノ証人又ハ被告人ト各別ニ訊問スヘシ但必要ノ場合ニ於テハ對質ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第一二七條)

(四) 証人ハ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(第一三四條)

(五) 証人ハ左ニ記載スルニ簡ノ義務アリトス
(イ) 呼出狀ニ指定セラレタル場所又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ出頭スルコト
(ロ) 第一一五條乃至第一一八條
此義務ニ違背シタルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ不參ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘシ且勾引狀ヲ發スルコトヲ得ヘシ再度ノ呼出ニ應セザルトキハ罰金ノ額ハ二倍トス

罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日間ニ正當ノ事由アリシコトヲ辯解スル
トキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ罰金並ニ賠償ノ言渡ヲ取消スヘキモノ
トス(第一一九條)

右出頭ノ義務ニ對シ左ノ四箇ノ例外アリ

(1) 証人疾病其他正當ノ事故アルトキ(第一一六條) 此場合ニ於テハ豫審判
事ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スヘシ

(2) 証人カ皇族ナルトキ(第一三〇條第一項) 此場合ニ於テモ豫審判事ハ其
所在ニ就キ訊問ヲ爲スヘシ

(3) 証人カ各大臣ナルトキ(第一三〇條第二項) 此場合ニ於テハ豫審判事ハ
其所屬官廳ノ所在地ニ於テ訊問ヲ爲スヘシ若シ各大臣其官廳ノ所在地ニ
在ラサルトキハ其現在地ニ於テ訊問ヲ爲スヘシ

(4) 証人カ帝國議會ノ議員ナルトキ(議會開會中議會ノ所在地ニ滞在ノトキ
ニ限ル)(第一三〇條第三項) 此場合ニ於テハ帝國議會ノ所在地ニ於テ之ヲ
訊問スヘシ

(四) 証人ハ其見聞シタル事實ヲ證言スルノ義務アリ(第一二六條刑法第一八〇
條)

此義務ニ違背スルトキ即チ証人タル者カ宣誓ヲ背セス又ハ宣誓ノ上供述ヲ
爲スコトヲ背セザルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處セラルモノト
ス

此義務ニ對シテモ亦例外アリ即チ左ノ如シ

(1) 官吏、公吏タル者又ハ官吏、公吏タリシ者カ其職務上默秘スヘキ義務アル
事情ニ關スルトキ(第一二五條第一項第一號)

(2) 醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分職業ノ爲メ委託ヲ受
ケタルヨリ知り得タル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ(第一二五
條第一項第二號)

此等ノ場合ニ於テハ証人ヨリ證言ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得ヘシ若シ證言
スルコトヲ拒マサルトキハ証人トシテ訊問セララルモノナリ

(3) 刑事訴訟法第二百二十三條及ヒ第二百二十四條ニ列舉シタル者 此等ノ者

ハ證言スルノ義務ナキハ勿論法律上證人タルノ資格ナキモノト認メラレタル者ナリ何トナレハ此等ノ者ハ或ハ直接間接ニ利害關係アリ或ハ智能不備不十分ノ者アリ又ハ其身上ニ缺點アリテ其供述ニ信ヲ置クコト能ハサルヲ以テ證人トシテハ訊問スルコトヲ許ササルモノトス

此等ノ者ハ證人タルノ資格ナキ者ナルカ故ニ證言ヲ拒マサルトキト雖モ兼審判事ハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス單ニ事實參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得ルノミトス

- (六) 證人カ豫審判事所屬ノ裁判所所在地ニ住セザルトキハ豫審判事ハ囑託訊問ヲ爲スコトヲ得ヘシ此囑託ハ證人カ管轄地内ニ在ルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ之ヲ爲シ又證人カ管轄地外ニ在ルトキハ其所在地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ之ヲ爲スヘキモノトス(第一三二條受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權利ヲ有スルモノナリ)
- (七) 證人カ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ナルトキハ左ノ特別ノ規定ヲ適用スヘシ其長官ハ其事實ヲ報告スルハ其意ヲ(第一二六條) 第一八〇

- (イ) 呼出狀ハ其所屬長官又ハ隊長ヲ經由シテ之ヲ送達ス(第一一七條)
- (ロ) 證人カ其職務上差支アルトキハ其所屬長官又ハ隊長ヨリ延期ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第一一七條)
- (ハ) 證人不參ノ場合ニ於ケル罰金ノ言渡及ヒ執行並ニ勾引ハ軍事裁判所又ハ其所屬長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(第一一八條第四項)
- (ニ) 證人カ宣誓ヲ肯セヌ又ハ宣誓ノ上供述ヲ爲ササル場合ニ於ケル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(第一二六條第二項)
- (ハ) 罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ニ對シテハ證人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得其抗告ハ執行ヲ停止スル效力アルモノトス(第一二六條第一項)

第七節 鑑定

被告事件ニ付キ證人ハ其見聞シタルコトヲ供述スルモノナルモ鑑定人ハ其見聞シタルコトヲ供述スルモノニ非スシテ學術經驗等ニ依リ分明ナラサル所ノモノヲ分明ナラシムルニ在リ(第一三五條第一項)

鑑定スヘキ事項ハ種種アリテ或ハ偽造物ノ鑑定ヲ爲シ或ハ犯罪ニ因リテ得タル物件ノ鑑定ヲ爲シ或ハ犯罪使用ノ物件ノ鑑定ヲ爲シ或ハ被害者又ハ被告人ノ身體ニ付キ鑑定ヲ爲シ或ハ押收物件ノ鑑定ヲ爲スコトアリキニ其眞豫審判事ハ必要ノ場合ニ於テハ死體ノ解剖又ハ墳墓發掘ノ上鑑定ヲ爲サシムル權利アリ(第一三五條第二項)

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り手續結果及ヒ時間ヲ記載スヘシ鑑定人數名アルトキハ各自別箇ニ鑑定書ヲ作ルモ共同シテ鑑定書ヲ作ルモ差支ナキモ其意思異ナルトキハ各別ニ之ヲ作ルコトヲ要スヘシ(第一四〇條)

鑑定ニ付テハ前ニ述ヘタル證人ニ關スル規定ヲ適用スヘキ場合多キモ其異ナル所ノ規定ナキニ非ス今茲ニ其重ナルモノヲ列舉スレハハ(一)鑑定人ノ爲スヘキ宣誓ハ證人ノ爲スヘキ宣誓ト其方法異ナレリ即チ證人ハ何事ヲモ默秘セス又附加セサルコトヲ誓フモノナルモ鑑定人ハ公平且誠實ニ鑑定スヘキコトヲ誓フモノナリ(第一三七條)(二)證人ノ出頭セザルトキハ豫審判事ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ヘキモ鑑定人

シテ直接ニ勤勞ニ對シテ支拂ハルルニ非ス唯官吏タルカ故ニ支拂ハルルナリ而シテ官吏ノ任命ハ其公法上ノ契約ニ基クテ處分令ニ出ワルト否トヲ問ハス一タヒ任用セラレタル以上ハ官吏服務規律ノ下ニ拘束セラレ國家ノ爲メ誠實ニ勤勞ヲ爲スヘキ者タリ故ニ俸給ト勞銀ノ相異ナル點ハ勞力ニ對スル報酬ノ間接ナルト直接ナルトニ存ス俸給ハ官吏タル資格ニ對シテ支拂ハルル經費ナリ故ニ賜暇缺勤職務擔任ノ有無等ハ俸給ノ支給ニ何等ノ關係ヲ有スルコトナシ非職ノ官吏ニ俸給ヲ給セザルカ如キハ單ニ財政上ノ理由ニ基クモノナリ又官吏トシテ職務ヲ現實ニ勤ムルモ必スシモ俸給ノ支給ヲ要スルコトナレ所謂名譽官吏ト稱セラルルモノノ如キ其一例タリ故ニ官吏ノ俸給ハ之ヲ形式ノ上ヨリ觀レハ官吏タル資格ニ對シテ支拂ハルル經費ニシテ實質ノ上ヨリ觀レハ官吏ノ地位ニ相當スル生活ヲ爲スノ料金ナリト謂フコトヲ得ヘシ

第三項 俸給ノ標準

俸給ノ多少ハ一ニ勤勞ノ效果如何ニ存スルヲ以テ寧ロ高給ヲ支給シテ職務ニ

忠實ナル能吏ヲ求メスルハ非ス隨テ俸給ノ標準ニ付テハ又幾多ノ學說アリ所謂俸給ヲ以テ勞銀ト同一視スル學者ハ又勢力ヨリ生スル利益ト其當時ノ生計費トニ依ルヘシト爲セトモ管ニ理論ニ於テ誤レルノミナラス官吏ノ勤勞ニ對スル利益ノ如キハ到底之ヲ具定シ得ヘキモノニ非ス獨逸ニ於テハ官吏任用ノ制度ト教育行政ノ發達ト相待テ教育費ヲ官吏俸給ノ標準ト爲スヘシト論スル學說多シ然レトモ教育費ヲ標準トスルハ理論ニ於テ尙ホ公平ヲ缺クノミナラス之カ賠償費ニ加フルニ官吏トシテノ生計ノ費用ヲ以テスルハ事實國庫ノ負擔ニ堪ヘサル所ナリトス全エンゲル民算定ノ表ヲ左ニ示スヘシ

教育費	高等官	判任官	高等官ハ三十一歳ニシテ就官シ
就職期間	七三六〇	七五〇	六十五歳マテ在職ト看做ス
教育費賠償年額	三十四年間	五十年間	判任官ハ十六歳ニシテ就官シ六十五歳マテ在職ト看做ス
	四五	四一	

(金利ヲ五分ト算定ス)

俸給ノ標準ニ關スル意見ニシテ最モ採ルヘキハ次ニ擧グル所ノ「ワグネル氏ノ五箇ノ原則ナリトス

- 第一 官吏ノ地位品位ヲ演ササルカ爲メ自己竝ニ家族ニ相當ナル生計ノ費用ヲ給與スルコトヲ要ス
 - 第二 官吏ノ地位ヲ安全ニシ且國家ノ威嚴ヲ毀損セサルカ爲メ在官中不慮ノ災害ニ因リテ職務ニ堪ヘサル場合ニ對スル準備トシテ餘裕アルコトヲ要ス
 - 第三 同一ノ理由ニ依リ老衰シテ職務ニ堪ヘサル場合ニ備フル爲メ貯蓄スヘキ餘裕アルコトヲ要ス
 - 第四 官吏カ過去ノ教育費ノ幾分ヲ年年俸給中ニ加ヘテ支給スヘシ
 - 第五 職務ノ種類ニ依リテ特ニ費用ヲ要スル場合ニハ官吏ノ俸給不公平ナカルヘキカ爲メ又國家ノ利益體面ヲ保持スルニ必要ナル費用ヲ給スルコトヲ要ス例ヘハ國務大臣外交官等ノ如キハ他ノ官吏ニ異ナリ其俸給ヲ厚ウセサルヘカラス
- 以上五箇ノ原則ニ於テ第五則ハ通常俸給ノ外ニ在勤手當又ハ交際費等ノ名目

ニ依リテ支給セララルモノナリ然レトモ職務ノ種類ニ止マラス居所ノ如何ハ
 又其給料ヲ厚クスルノ要アリ例ヘハ在外公使領事官又ハ郵便電信局其他内地
 ニ於テ臺灣、千島、沖繩等ノ土地ハ或ハ其土地ノ僻遠ナルカ爲メ或ハ土地ノ物價
 高キカ爲メ之カ手當ヲ増額ス臺灣ニ於ケル在勤加俸海外ニ於ケル在勤手當ノ
 如キ是ナリ其他軍人軍屬カ戰役ニ從フ場合ニ於ケル加俸ノ如キモ亦其例ナリ
 故ニ第五則ノ職務ノ種類ノ次ニ居住地ノ狀況及ヒ職務上ノ事故等ノ十五字ヲ
 加フルヲ以テ妥當ナリトス勿論右五箇ノ原則ニ於テ第五則ハ殆ト第一則ノ中
 ニ包含セラレ第四則ハ教育費ノ多少ハ自ラ其勤勞ノ效果ニ正比例スベキヲ以
 テ結局以上五箇ノ原則ハ一括シテ相當ナル生計ノ費用及ヒ相當ノ餘裕ヲ與フ
 ヘシト謂フニ歸著スヘキナリ

第四項 俸給ニ關聯セル對人經費

官吏ノ需要ハ大體ニ於テ國家ノ專占スル所ナリ故ニ一方ニハ國家ハ官吏ヲシ
 テ誠實ノ職務ヲ奉シ之カ事務ニ熟練ヲ要スルト共ニ一方ニハ官吏ハ益、國家ノ

專有ニ屬スル職務ニ固定シ他ニ供給ノ途少カルヘキヲ以テ一朝其地位ヲ失フ
 ニ至リテハ忽チ生計ニ非常ナル支障ヲ來スヘシ故ニ此等ノ場合ニ於テ退官賜
 金ノ制ヲ採リ一ハ任用ノ志望者ノ供給ヲ増加シ一ハ少壯有爲ノ良吏ヲ登用ス
 ルノ途ヲ開クヘキモノナリ又其就職ノ期間十數年ノ永キニ亘リタル者ニ對シ
 恩給ノ制ヲ設クルハ上述ノ二理由ニ加フルニ經驗アル良吏ヲシテ其職ニ固著
 セシメ又同時ニ老朽ノ官吏ヲ退職セシムル良法ナリ在職中ノ死亡者殊ニ公務
 執行ノ爲メ死亡、傷疾、疾病セル者ニ對スル手當遺族扶助料等ヲ支給スルハ能ク
 職務ニ忠實ナラシムル所以ナリ其他官吏ハ職務ノ種類、居住地ノ狀況ニ依リ別
 ニ手當、交際費等ヲ支給セラレ或ハ官宅ヲ供シ馬匹、服裝等ノ費用ヲ支辨シ特ニ
 職務ニ功勞アルトキハ別ニ賞與ヲ與フル等皆各國其軌ヲ一ニスル所ニシテ近
 時官吏ニ對スル強制保險問題ノ如キ亦獨逸等ニ於テ實際問題トシテ誘發セラ
 ルルニ至レリ

第五項 官吏ノ任用

官吏ノ俸給ノ多寡ハ一ニ勤勞ノ效果如何ニ在ルモ寧ろ多數ノ薄給ノ官吏ヲ得ルヨリモ少數ノ高給ノ官吏ニ依リテ事務ノ敏活ナル行動ヲ俟ツヘキハ殊ニ我國ニ於テ其必要ヲ見ル所ナリ時間ノ觀念ニ薄キ我國ニ於テハ徒ニ多數ノ官吏カ長時間ニ通シ比較的不生産ナル職務ノ執行ニ當レルノ嫌アルヤハ剩下ノ時事問題ニ屬セリ由來國家ノ政務ハ一ニ人材ノ登用ニ在ル以上ハ官吏任用ノ制度ハ行政上最モ重要ナル問題ノ一タラスンハ非サルナリ

官吏ノ任用ハ古代ノ專制時代又現時清韓等ノ如ク常ニ上長ノ職ニ在ル者ノ自由ニ放任セラレ官職ハ公然ニ賣買セラレ官吏ハ公然收賄ヲ擅ニセルモノハ姑ク之ヲ除キ近時歐米ノ列國ハ一般ニ試験ニ依リテ任用ノ資格ヲ限定スルヲ原則ト爲スニ至レリ唯リ合衆國ハ官吏ニ特別ノ資格ヲ要セス常ニ黨派ノ互ニ政權ヲ執ルト否トニ由リ殆ト凡テノ官吏ハ交迭セララルヲ例ト爲セリ英國ハ漸次試験制度ヲ採用シ又政務官以外ノ事務官ハ政黨内ノ輿論ニ依リテ交迭セラルルコトナシ佛國ハ又試験制ヲ執ルヲ原則ト爲スモ事務官ノ地位英國ニ比シテ却テ鞏固ナラサル點アリ獨逸ニ至リテハ官吏ノ任用法最モ發達シ普通ノ高

等官ハ中等教育ヲ受ケタル後三年間法科大學ニ入り學術上ノ試験ヲ卒ヘ後四年間試験補ト爲リ尙ホ實地上ノ試験ヲ經テ始メテ任用セラレ而シテ官吏ノ地位ハ法規ノ確保スル所ト爲リ頗ル鞏固ナルモノアリ我國ニ於テハ又司法官行政官外交官等總テ試験制度ニ依リテ任用スルモ猶ホ獨逸ニ比シテ任用頗ル緩ニシテ其地位又政黨内閣制ニ非サルニ拘ハラス比較的鞏固ナラサルノ嫌アリトス

第二節 供給ノ種類ヲ標準トスル分類

國家カ支出スルカ爲メニ用ヒラルル所ノモノヲ標準トスルトキハ貨幣ト貨幣以外ノモノノ二者ニ分類スルコトヲ得ヘシ貨幣經費及ヒ實物經費是ナリ古來實物經濟ノ行ハレタル時代ニ在リテハ國家ノ收入及ヒ支出ハ其大部實物ヲ以テセラレ米穀其他二三ノ實物バ又同時ニ貨幣ノ作用ヲ爲シタリ然レトモ貨幣經濟ノ發達ニ伴ヒ收入支出ノ計算ハ舉ケテ貨幣ニ依リ實物ノ收入支出ハ共ニ著シク其額ヲ減スルニ至レリ現時我國ニ於ケル實物經費モ亦陸海軍ニ於

ケル被服其他特別ノ官吏ニ支給スル官宅等ノ類ヲ除クノ外ハ殆ト暴ケテ貨幣ヲ以テ支給セラルルニ至レリ

此分類ニ付テ重要ナル問題ハ備荒儲蓄ノ制ナリ即チ備荒儲蓄ノ全部又ハ一部ヲ實物貨幣執レニ爲スヘキヤニ在リ古來我國及ヒ支那等ニ於ケル義倉常平倉等ノ制ハ或ハ中流以上ノ者ヨリ五穀ヲ輸納セシメテ災時ニ之ヲ賑恤シ或ハ米價下落ノ際米穀ヲ購入儲蓄シテ米價騰貴ノ際ニ無償又ハ元價ヲ以テ之ヲ交付スルノ方針ヲ採リタリ然レトモ近時貨幣經濟ノ發達ニ伴ヒ多クハ災害ニ對スル基金ヲ儲蓄シテ變時ニ於ケル避難所小屋掛食料治療被服就業等ノ經費ニ充ツルモノノ如シ我國ニ於テハ明治三十二年三月法律第八十一號ヲ以テ災害準備金特別會計法ヲ公布シ價金特別會計資金ノ中一千萬圓ヲ割キテ之カ基金ト爲シ非常ノ災害ニ因ル土木費ノ補助租稅特免ニ因ル財源ノ補充ニ充テ同年法律第七十七號ヲ以テ備荒儲蓄法ヲ廢シテ新ニ罹災救助基金法ヲ制定シ各府縣ノ基金最低額ヲ各五十萬圓ト爲シ之ニ充ツルカ爲メ直接國稅ニ制限外百分ノ三以內ノ附加稅ヲ許シ國庫ハ又年年三十萬圓宛ノ補助金ヲ支出スルコトト爲

雜報

○一旦他人ニ賣却セラレタル不動産タルコトヲ知ルヲ買受ケタル行爲ニ對シテ不動產ニ關スル物權ノ得喪ハ登記ヲ爲スニ非カレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナルコトハ民法第七十七條ノ規定セル所ニシテ舊民法ニ於ケルカ如ク其善意タルト惡意タルトヲ問ハサルナリ舊民法財產編第三五〇條參照然レトモ買主カ賣主ヲ欺罔シ騙取スルノ意思ヲ以テ買主ヲシテ賣渡ノ意思ヲ表示セシメ之ヲ登記シタル場合ニ於テハ其契約ハ無効ナルカ將テ取消シ得ヘキモノナルガニ付テハ議論ノ該ル所ナルト同時ニ此場合ニ於テハ詐欺取財罪ヲ構成スルヤ否ヤニ付テモ多少議論アリト聞ク之ニ稍ヤ類似セル問題ニ付テ

大審院ノ判決ヲ經タル事實アリ今其判決ノ要旨ヲ示サンニ原院ノ認定シタル所ニ依レハ保爭地所ハ其所有者タリシ石田慶助生存中即チ明治十六年中松永市之助ノ所有ニ屬シタルモノナルニ明治三十三年ニ至ルモ公簿上依然慶助ノ所有名義トナリ居ルニ乘シ被告ハ該地所ヲ騙取センコトヲ企圖シ慶助相續人

石田大吉妻トテ對シ該地所ハ大吉ノ所有ナル旨ヲ詐言シ大吉ヲシテ一旦所有名義保存ノ登記ヲ受ケシメタル後更ニ自ラ買賣ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケタルモノモシテ則チ原院ハ右被告ノ行為ヲ以テ被永家ノ不動産ヲ騙取シタルモノナリト爲セリ然ルニ大吉ハ慶助ノ相續人ナレハトテ元來相續人ハ被相續人ノ有セシ權利義務ヲ承繼スルニ過キテハ慶助カ生存中既ニ他ニ賣却シ其所有權ノ他ニ移轉セシモノニ付テハ之ヲ相續スルヲ得ヘキモノニ非ス從テ大吉カ係争地所ニ付キ所有名義保存ノ登記ヲ受ケタルハ全ク無關係ナル他人ノ地所ニ付キ登記ヲ受ケタルニ異ナルコトナクシテ之カ爲メ眞ノ所有者タル者ハ其權利ヲ喪失スヘキモノニ非ス從テ被告カ大吉ヨリ所有權取得ノ登記ヲ受ケタレハトテ之カ爲メ何等ノ得ル所アルヘキ理ナレ然ルニ原院カ此事實ヲ以テ不動産ヲ騙取シタルモノトシ詐欺取財ノ法律ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法タルヲ認カレヌト云フニ在リテ原院長崎控訴院カ前買主即チ被永市之助ヲ以テ詐欺取財罪ノ被害者ト認メ後ノ買主即チ被告ヲ詐欺取財罪ヲ以テ問擬シタルヲ不法トシ尙ホ上告人原院檢察長ノ上告論旨ヲモ是認セヌト上告人ハ

本件ノ事實ハ大吉カ他人ノ地所ヲ自己ノ物ト誤信シ之ヲ賣渡シタルモノナルニ之ヲ有效ノ賣買ナリト云ヒ又ハ原院カ該地所ヲ所有權カ市之助ニ屬シタルモノトセシハ當時ノ法律明治十三年第五十二條布告ニ適合シタルモノナルニ其後ノ發布ニ係ル民法ノ規定ヲ引用シ第三者ニ對抗スルヲ得スト云フカ如キ其理由ノ妥當ナラザルモノナキニ非ス云云ト說明シテ大審院自ラ無罪ノ判決ヲ下サレタリ(大審院明治三十四年(レ)第一八九八號詐欺取財事此ノ如ク控訴院檢察長、大審院各、其見解ヲ異ニシ其就レテ最モ穩當トスルカハ今遽ニ論評スルコト能ハスト雖モ民法第七十七條及ヒ民法施行法第三十七條ノ規定ノ存スル以上ハ大審院ノ見解ノ如ク被告ハ常ニ其不動産ノ所有權ヲ得ザルカノ如ク解スルニ果シテ當ヲ得タルモノナリヤ余輩ハ寧ロ控訴院ノ判決ノ如ク有罪トスルニ非スシハ上告論旨ニ從ヒテ無罪トスルノ當ヲ得タルモノニ非サルナキカヲ疑フ者ナリ(大審院判決錄第八輯第一卷刑事事第四三頁乃至四七頁參照)
○民法中改正法律ヲ公布 家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於テ其直系卑屬ヲ分家ニ入ルルコトニ關スル法律ハ本月五日ノ官報ヲ以テ公布セラレタリ其全文左



ノ如シ法律第三十七條 茲將日本改正民法中左ノ通リ改正ス
 第七百四十三條ニ左ノ二項ヲ加テ第一款ヲ第四款ニ改メ
 家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於テハ戶主ノ同意ヲ得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家
 ノ家族ト爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ直系卑屬カ滿十五年以上ナルトキハ其同意ヲ得ルコト
 ヲ要ス
 附則 其後遺言ニ於テハ其直系卑屬ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直系卑屬カ意思能力ヲ有セテ
 ナトキハ法定代理人之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ依リテ
 分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得
 本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規
 定ニ依リ分家ノ家族ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適
 用セス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得

(注 意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ず本帳ヲ知家ノ居所、氏名及年齢、金額、年、月、日、月謝ノ月別若シハ何月分ナリ何月分迄ト記入シ、備考欄ニ記入スルモノトス

納付書

金額()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年 月 日

和佛法律學校會計局御中

納付書

金額()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年 月 日

和佛法律學校會計局御中

ノ如シ法律第三十七號

民法中左ノ通り改正ス

第七百四十三條ニ左ノ二項ヲ加フ

家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於テハ戶主ノ同意ヲ得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家ノ家族ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ直系卑屬カ滿十五年以上ナルトキハ其同意ヲ得ルコトヲ要ス

附則

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直系卑屬カ意思能力ヲ有セザルトキハ法定代理人之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適用セス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

(注意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ズ本紙ヲ切取キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ學年別、月謝ノ月別若クハ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號 ()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也
居所

明治三十五年

月 日

和佛法律學校會計局御中

納付書

爲替番號 ()

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也
居所

明治三十五年

月 日

和佛法律學校會計局御中

校外生規則摘要

一 講義録ヲ分テ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一 講義録ノ掲載科目左ノ如シ

- 第一學年 法學通論、民法(第一編及第二編第六卷マテ)、刑法(總論)、憲法、國際公法、經濟學
- 第二學年 民法(第三編)、商法(第一編第二編、第三編)刑法(總論)、民事訴訟法(第一編第二編)、刑事訴訟法、財政學
- 第三學年 民法(第二編第七卷以下、第四編、第五編)、商法(第四編第五編)、民事訴訟法(第三編以下)、破産法、行政法、國際私法

一 講義録ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

- 第一學年 五日 二十日 第二學年 十日 廿五日
- 第三學年 十五日 三十日(但二月三限リ來日)

一 校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

- 第一學年 金三十圓 第二學年 金四十圓
- 第三學年 金五十圓 全學年 金一圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早速便ヲ以テ東京市總町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可

明治三十五年四月九日印刷

明治三十五年四月十日發行

(定價金貳拾五圓)

東京市牛込區東横町十七番地

編輯者 松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信・妹

東京市芝區四ノ久保町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)